

[論文]

複式簿記の原理とその論理的導入法 (14)

Ⅸ 会計原理 (会計学総論) の教材開発実例研究

椎 名 市 郎

〈目 次〉

I 会計哲理 (認識論的・方法論的研究方法) への道と問題提起

II 複式簿記導入法のステップ

1. 複式簿記の歴史的視点

- (1) 歴史的視点
- (2) 経済体制 (資本主義社会) と複式簿記の実質的意義
- (3) 階級 (階層) と Accountability
- (4) 民族性 (人間行動様式) にみる新しい視点
- (5) 何故、複式簿記原理を学ぶのか
(以上、『中央学院大学論叢』第14巻第2号、所収)

2. 複式簿記の哲理

- (1) 会計学方法論のフレームワーク
 - ①会計学の対象 (Gegenstand)
 - ②会計学の方法 (Methode)
- (2) ウェーバーの形式的合理性 (formale Rationalität) と複式簿記の論理的構造
 - ①ウェーバーの形式的合理性と複式簿記
 - ②複式簿記の論理的構造
 - (i) 複式簿記の体系的理解
 - (ii) 複式簿記の論理的特徴
 - (iii) 勘定の論理
(以上、『中央学院大学論叢』第20巻第2号、所収)

(3) 複式簿記の生成史的特徴

- ①複式簿記の二つの起源論
 - ②複式簿記起源説における形式的解釈と実質的解釈
- (4) 資本主義経済と複式簿記の実質的解釈
 - ①資本の複式簿記と実質的解釈
 - ②ゾンバルトに観る資本の複式簿記
 - (5) 階級 (階層) と複式簿記の形式的解釈
 - ①代理人簿記の形式的解釈と階級・階層との関係
 - ②形式的解釈の継承性の問題
 - (6) 会計学における「人間」の問題と勘定の本質
 - ①会計学における二つの「人間」の側面
 - ②勘定計算に現れる人間
(以上、『中央学院大学商経論叢』第1巻第1号、所収)

3. 複式簿記の技術

- (1) 計算思考論としての利潤計算原理
 - ①財産法 (Inventarrechnung) と損益法 (Ertrags- und Aufwandsrechnung)
 - ②財産法と損益法の一般概念
 - ③山下学説における財産法と損益法の史的発展
 - (i) 財産法会計の成立
 - (ii) 財産法会計の特質から観た批判
 - (iii) 財産法会計から損益法会計への移行
 - ④岩田学説における財産法と損益法
 - ⑤山下学説と岩田学説
- (2) 会計の定義と複式簿記
- (3) 会計的技術 (art) の特徴

- (4) 法社会学における目的（法的価値）と手段（ことば的研究）
（以上、『中央学院大学商経論叢』第1巻第2号、所収）
 - (5) 複式簿記の技術的目的合理性
 - ①技術的合理性と制度的妥当性
 - ②技術的合理性の特徴
 - (i) 形式的特徴—二重性と均衡性—
 - (ii) 実質的特徴—名目勘定—（以上、『中央学院大学商経論叢』第2巻第1号、所収）
 - (6) 技術的目的合理性の理念
 - ①名目勘定（nominal account）の歴史的因果性
 - ②名目勘定生成認識の問題点
 - ③名目勘定の目的論性（以上、『中央学院大学商経論叢』第2巻第2号、所収）
- ### Ⅲ 複式簿記に現れる人間
- 1. 会計学研究と会計教育
 - 2. 会計構造論としての複式簿記研究方法論の展開
 - 3. 簿記研究に現れる人間の問題
 - 4. 会計構造論の形式的な解釈と実質的解釈
 - 5. 形式的な解釈と実質的な解釈の現代的意義
（以上、『中央学院大学商経論叢』第5巻第2号、所収）
- ### Ⅳ 複式簿記に現れる資本概念
- 1. 複式簿記と資本概念
 - 2. 資本概念と簿記勘定学説
 - 3. 人的勘定学説、静的（物的）勘定学説と資本概念
 - (1) 人的勘定学説と資本概念
 - (2) 静的（物的）勘定学説と資本概念
 - (3) 上野（道輔）学説と畠中（福一）学説
 - 4. 動的勘定学説と資本概念
 - (1) 動的勘定学説の生成とその理論的前提
 - (2) シュマーレンバッハの資本概念
 - (3) コジオールの資本概念
 - (4) 動的勘定学説と資本概念
（以上、『中央学院大学商経論叢』第6巻第1号、所収）
 - 5. 資金勘定学説と資本概念
 - (1) ルフチの資金理論と資本領域
 - (2) ヴァッターの資金理論と資本
 - (3) 資金概念と資本概念
 - (4) 資金と資本の一般的概念
 - 6. 商法における資本概念
 - (1) 企業の形態と資本
 - (2) 株式会社の資本概念
- ### Ⅴ 複式簿記定立化の論理
- 1. 複式簿記定率化の一般理論
 - 2. 複式簿記と企業簿記の定立化の問題
 - 3. 企業（複式）簿記とその定立化
 - 4. 定立に対する反定立の学説
（以上、『中央学院大学商経論叢』第9巻第1号、所収）
- ### Ⅵ 複式簿記と会計制度の变革
- 1. 伝統的な会計制度をめぐる会計環境の変化
 - (1) 会計環境の変化と会計の国際化
 - (2) わが国の会計基準と国際会計基準
 - (3) わが国会計制度の変遷
 - 2. 二つの会計制度の対比とその変遷
 - (1) わが国制度会計の構造と変遷
 - (2) 債権者保護のための貸借対照表重視の会計観
 - (3) 投資家保護のための損益計算書重視の会計観
 - (4) 「企業会計原則」の変遷
 - 3. 伝統的（古典的）な二つの会計観
 - (1) 利潤計算原理—財産法と損益法
 - (2) 財産法と損益法の特徴
 - ①財産法の特徴
 - ②損益法の特徴
 - (3) 財産法と損益法の歴史
 - (4) 貸借対照表の見方—静態論と動態論とその後の展開
 - ①静態論の特徴
 - ②動態論の特徴
 - ③新しい仮想的清算の会計観の特徴
 - (5) 現実の会計制度と理念型の財産法と損益法、静態論と動態論
 - 4. 二つの会計観の対立と補完
 - (1) 会計基準設定をめぐる二つのアプローチ
 - ①公準論アプローチ
 - ②概念フレームワーク
 - (2) 「費用収益アプローチ」と「資産負債アプローチ」の対立と補完
 - (3) 利害調整機能と情報提供機能の対比
（以上、『中央学院大学商経論叢』第18巻、所収）

VII 複式簿記とアカウンティング・マインド

1. 伝統的な会計教育の現状と課題
 - (1) 重層した会計観の混在と現近代制度会計史
 - (2) 会計教育の質と量の増大
 - (3) 会計ソフトの普及への対応
 - (4) プロフェッションの会計から開かれた市民教養の会計へ
2. 会計環境の変化とこれからの会計教育
 - (1) 会計環境の変化
 - (2) 会計環境の変化と会計教育
 - (3) 会計教育の環境変化と教育内容
3. 複式簿記とアカウンティング・マインド
 - (1) アカウンティング・マインドの概念
 - (2) アカウンティング・マインドの構造
 - (3) 複式簿記とアカウンティング・マインド
 - (4) 会計教育の目的とリーガル・マインド
4. 複式簿記とアカウンティング・マインドの骨格
 - (1) 近代資本主義の精神と複式簿記の特質
 - (2) 異種民族の中で生成した簿記
—会計の国際性の問題
 - (3) ロビンソン・クルーソー物語と信仰の記帳
—複式簿記の合理的精神
 - (4) 複式簿記の勘定と文化・宗教の影響
 - (5) 企業簿記と複式簿記の峻別
—簿記研究の対象の二段性問題
 - (6) 複式簿記の技術の移転性の問題
5. 複式簿記とアカウンティング・マインドの課題
(以上、『中央学院大学商経論叢』第32巻第1号、所収)

VIII 会計原理の教材開発研究の視座

1. 教材開発研究の三つの視座
2. 会計原理の教材開発研究の視座—第一の視座—
 - (1) 社会システムの構造
(第一編 オリエンテーションの骨格)
 - (2) アカウンティング・マインドとエートス (Ethos)
の基礎概念 (第二編 会計原理の精神)
 - (3) Convention の世界 (第三編 会計制度の本質)
3. 社会と会計環境の変化—第二の視座—
 - (1) 変貌する会計教育
 - (2) 会計教育を取り巻く環境の変化とその問題点
4. 大学改革と会計教育—第三の視座—
 - (1) 教育関係の業績概略

- (2) 社会人力の背景
- (3) 学士力の前提となる社会人基礎力の概念
- (4) 会計プロフェッション教育としての会計力
- (5) ビジネスの教養教育としての会計力

(以上、『中央学院大学商経論叢』第32巻第2号、所収)

IX 会計原理 (会計学総論) の教材開発実例研究

1. 会計原理 (会計学総論) のコア・カリキュラム
 - (1) 会計教育と会計力の構造
 - (2) コア・カリキュラムとベンチマーク
 - (3) 会計原理 (会計学総論) のコア・カリキュラム
 - ①シラバスの理想型モデル
 - ②シラバスの実践型 (椎名) モデル
2. 会計原理 (会計学総論) の教材開発実例研究 (1)
—オリエンテーション編と会計原理編—
 - (1) 第1編 オリエンテーションの目次と教材の着眼点
 - ①オリエンテーションの目次
 - ②オリエンテーションの教材の着眼点
 - a) イノベーションと学問の発想の転換
 - b) 社会システムと会計
 - c) 会計の限界
 - (2) 第1編 オリエンテーションの教材開発実例研究
 - (3) 第2編 会計原理の目次と教材の着眼点
 - ①会計原理の目次
 - ②会計原理の教材の着眼点
 - a) 会計原理のコアとアカウンティング・マインド
 - b) Accounting Cycle
 - c) 複式簿記の構造
 - d) 会計原理と人間の問題
 - e) 3つの企業活動と財務諸表の関係
 - (4) 第2編 会計原理の教材開発の実例研究

(以上、『中央学院大学商経論叢』第33巻第1号、本号所収)

Ⅸ 会計原理（会計学総論）の教材開発実例研究

1. 会計原理（会計学総論）のコア・カリキュラム

(1) 会計教育と会計力の構造

私見によれば、「21世紀型市民の育成」の学士力の一部を担う会計力に関していえば、次の3つの概念に集約できると思われる。

(1) 会計力の意義—会計力とは会計学の固有の専門的知識の修得という静的な観念ではなく、会計事象の知的体系である会計学の体系を生かした判断能力に重きがおかれる有機的にして動的な概念といえる。学部での会計教育はこの基礎養成期間で、「会計学の見方・考え方」を学び、「バランスの取れた会計思考や判断」の基礎能力育成が重要となる。私はこれをアカウンティング・マインドとして概念づけて学会で始めて発表をした⁽¹⁾。

(2) 会計力の構造—会計力の構造には①体系的思考（簿記原理、財務会計、管理会計、原価計算、会計監査、財務分析、税務会計、会計情報等の個別領域の知識を相互関連させ体系化する思考能力）、②論理的思考（会計学の固有な思考や技術を理解し、会計学を会計学としてたらしめているアカウンティング・マインドの基礎的思考の修得能力）、③判断的思考（手続の二重性や貸借均衡性、投下資本回収計算等を通じて真実や有用な情報⁽²⁾を見極めるアカウンティング・マインドの最終目標）の

三段階がある⁽³⁾。

(3) 会計力育成の目標・方法・内容—会計力を培うための会計教育目標は、①会計プロフェッション育成と、②一般ビジネス教養とでは異なる。専門職大学院等の登場で①は学部教育から制度上分離され、学部では一般ビジネス教養育成としてのジェネラリスト教養型会計教育に主眼がおかれる時代を迎えている。すなわち、「21世紀型市民の育成」⁽⁴⁾の中での学士力としての会計力の養成である。

しかし、会計教育の方法は、単に伝統的な簿記処理や会計基準の理解のみでなく、会計力としての判断的思考が求められるため、板書を前提にした一律教育ではなく、個々の学生レベルに合わせたマルチメディアを利用した会計教育等の個別的教育も重要となる⁽⁵⁾。文部科学省は、各学部レベルの「コア（骨格）カリキュラム」の策定を促し、コア・カリキュラムを決めて教育の達成基準であるベンチマークを明示し、その成果を検証するため卒業品質保障を重視している⁽⁶⁾。このように、学士力や会計力養成には、個々の教員の成績評価より共通的な可視化が重要となり、統一的な評価・査定基準を前提にしている点に特徴がある⁽⁷⁾。電子教材やeラーニングなどの学習法の組み合わせのメタ学習などについても現代的課題である⁽⁸⁾。私立大学情報教育協会では、すでに11年前に会計教育IT活用研究会で会計のコア・カリキュラムを公表している⁽⁹⁾。このモデルは、次節で後述する。

- (1) 椎名市郎研究発表「簿記とアカウンティング・マインドの研究」、第19回（2003年8月）日本簿記学会全国大会（於 高崎商科大学）。椎名市郎稿「簿記とアカウンティング・マインドの研究」、日本簿記学会論文集『年報』第19巻（白桃書房）、2004年8月、62～66頁。椎名市郎研究発表「会計マインドと会計プロフェッション」、第63回（2004年9月）日本会計研究学会全国大会（於 中央大学）。椎名市郎稿「会計マインドと会計プロフェッション」、『会計』（森山書店）、2005年8月号、13～23頁。
- (2) 2018年3月に公表された国際会計基準審議会の新概念フレームワークでは、2010年の考えを継承して有用な情報の質的特性に目的適合性と忠実な表現の二つを挙げている。岩崎伸哉稿「IFRSの新概念フレームワーク」、『旬刊経理情報』（中央経済社）、2018年7月10日号、15～16頁。
- (3) 青柳文司著『会計学への道』（同文館）昭和51年、40頁。
- (4) 文部科学省中央教育審議会「我が国の高等教育の将来像（答申）」、平成17年1月。
- (5) 会計学の授業方法に教育工学の理念を援用した「教科主義」と「構成主義」については、福浦幾巳稿「ICT化の進展を背景とした会計教育の課題」、『企業会計』、2008年1月号参照のこと。
- (6) 平成19年9月18日付、文部科学省、中央教育審議会大学分科会・制度教育部会・学士課程教育の在り方に関する小委員会「学士課程教育の再構築に向けて（審議経過報告）」。
- (7) 「学部教育カリキュラム、大学質維持へ指針—文部科学省検討、全入時代に対応」、日本経済新聞、2008年3月7日付朝刊。
- (8) N. エントウィルス著、山口栄一訳『学生に理解を重視する大学授業』（玉川大学出版部）、2013年、144～147頁。
- (9) 私も会計教育IT活用研究委員会の専門委員の一員として末席で参画した私立大学教育情報研究会編「第2章 ファカルティ・デベロップメントとしてのIT活用授業モデル—会計教育の授業」、『大学教員への提言—ファカルティ・デベロップメントとIT活用』、2006年、110～124頁を参照されたい。

(2) コア・カリキュラムとベンチマーク

アカウントティング・マインドの修得は、会計原理の中でたとえば、以下のような会計学総論（会計学入門）という科目を例にしてそのラーニング・アウトカムズを目標に実践される⁽¹⁰⁾。

(1) 最低到達レベル

目標レベル①—会計学の体系と簿記を中心に財務諸表の概要が理解される。

目標レベル②—簿記の学問領域と財務諸表の学問領域との関係が理解される。

(2) 標準到達レベル

目標レベル③—会計学固有の各学問領域の特徴を理解した上で、アカウントティングサイクルの中で学問間の諸関係が理解される。

目標レベル④—組織（内部統制等）や社会システム（アカウントビリティ等）を理解し、会計情報の作成過程や利用方法が理解される。

(3) 上級到達レベル

目標レベル⑤、⑥—「会計学入門では、導入教育というこの科目の趣旨に鑑み、上級到達レベルの構築は不要と考える。」

ラーニング・アウトカムズを前提に、会計学総論（会計学入門）のベンチマーク⁽¹¹⁾を提示すれば以下のようになる。

(1) 最低到達レベル

目標レベル①—会計学の体系と簿記⁽¹²⁾を中心に財務諸表の概要が理解される。

- (a) 会計学の構造と機能を説明できる。
- (b) 会計の社会的機能と会計法規の必要性が理解できる。

(c) 複式簿記の原理の理解ができる。

(d) 複式簿記と財務諸表（基本となる B/S と P/L）の関係が理解できる。

(e) 貸借対照表と損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の関連が理解できる。

目標レベル②—簿記の学問領域と財務諸表の学問領域との関係が理解できる。

(a) 複式簿記から財務諸表への誘導法との関係を十分説明できる。

(b) 貸借対照表と損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の関連が説明できる。

(c) 簡単な設例で簿記手続きの一巡を説明できる。

(2) 標準到達レベル

目標レベル③—会計学固有の各学問領域の特徴を理解した上で、アカウントティング・サイクルの中で学問間の諸関係が理解できる。

(a) 管理会計⁽¹³⁾を中心とした予算編成が、執行段階で簿記処理され、その成果として一定時点で財務諸表が作成され、監査、税務処理されて、財務分析に至る各会計学問領域の関係を理解できる。

(b) 連結財務諸表の必要性和構造の概要が理解できる。

(c) 個別財務諸表と連結財務諸表のそれぞれの機能と特徴が理解できる。

(d) 原価計算、監査、税務会計の体系や特徴が理解できる。

(e) トライアングル体制といわれる会計法規の体系を理解できる。

(f) 会計の国際化の中で国際財務報告基準や環境会計、ESG 投資等の新たな展開を理解できる。

(g) 会計学の主要な原理・原則・基準が説明できる。

目標レベル④—組織（内部統制等）や社会システム（ア

(10) 私立大学教育情報教会（会計教育 IT 活用研究委員会）編、前掲書（9）、110～124頁を一部加筆。

(11) 1990年代の伝統的な会計教育の中でのベンチマーク（達成基準）の実態調査結果は下記の資料を参照されたい。藤田幸男編『21世紀の会計教育』（白桃書房）、1998年、216頁。

(12) 我が国の高等教育の会計教育の歴史的特徴は、以下の見解が参考となる。すなわち、「商大（現一橋大学）以来の商人の学問の中心としての簿記という考え方のもと、帝大（現、東京大学）で築かれたドイツ流の理論体系の影響を受け、また、制度的には各種試験制度を通じて、英国の影響を間接的に受けて今日に至っている」。橋本武久稿「高等教育機関（大学）における会計教育」、『企業会計』（中央経済社）、2018年1月号、Vol.70、No.1、81頁。

(13) 2016年4月に英国勅許管理会計士協会（CIMA）の支援を受け、英国規格協会（BSI）は世界で初めてといわれる管理会計基準を発表した。財務会計基準同様に管理会計においてもこのような共通のルールが形成されることは会計教育上も望ましい。中嶋功・帯金貴幸稿「世界で最初の管理会計基準を参考に管理会計フレームワークの可能性とその活用を考える」、『旬間経理情報』（中央経済社）、2016年8月20日号、29～33頁。

カウンタビリティ等)を理解し、会計情報の作成過程や利用方法が理解できる。

- (a) 日経新聞に出てくる会計事象を取り上げ、それが会計学のどの分野に焦点があてられているのかを説明できる能力がある。
- (b) 学習プログラムに適切な会計一巡修得の技法があり、それぞれの状況下で会計技法を適切に駆使できる基礎的能力を有している。
- (c) 会計学の特徴は、一定の原理・原則の制約下での利益計算であり⁽¹⁴⁾、原理・原則・基準が異なると別の利益が測定されるというのがアカウンティング・マインドが理解できる。
- (d) 粉飾決算が行われた事例(東芝、富士ゼロックス等)を取り上げて会計不正が社会に及ぼす影響を説明できる。

なお、日本公認会計士協会は、2018年5月31日付けで、「会計基礎教育等に関する実態等の調査報告書」を公表した。会計教育の裾野を広げるために、大学教育以前の基礎教養教育として会計教育の重要性を指摘している。算数・家庭科等での義務教育に会計教育を含めることや現代社会を生きるリテラシーとしてできる教養会計教育への転換など4項目が提言されている⁽¹⁵⁾。特に、次期の中学校社会科学習指導要領に2021年度から企業会計に関わる内容が織り込まれる予定という。会計に対する関心年齢を基礎教育期まで下げて、会計教育の視野を広げるという意味で注目される⁽¹⁶⁾。

(3) 会計原理(会計学総論)のコア・カリキュラム

①シラバスの理想型モデル

会計学総論(会計学入門)の理想型モデルのコア・カリキュラムは以下(図表1)のようになる。

(図表1) 会計学総論(会計学入門)シラバス
理想型モデル⁽¹⁷⁾

回数	項目	内容
第1回	会計の意義と機能	会計の機能と構造、アカウンティング・マインド
第2回	企業会計を取り巻く環境	法規制、トライアングル体制
第3回	複式簿記	簿記の仕組みと財務諸表作成プロセス
第4回	貸借対照表	意義、機能、構造、分析・利用方法
第5回	損益計算書	意義、機能、構造、分析・利用方法
第6回	キャッシュ・フロー計算書	意義、機能、構造、分析・利用方法
第7回	連結会計制度	連結財務諸表の必要性と特徴、利用法
第8回	(演習Ⅰ)財務会計の諸問題	財務諸表の見方・企業評価分析
第9回	原価計算	原価の本質、原価計算の種類と計算方法
第10回	管理会計	戦略、利益計画、資金管理、予算管理
第11回	(演習Ⅱ)管理会計の諸問題	原価計算の方法、予算編成の策定
第12回	監査論	意義、役割、監査技術、その限界
第13回	国際会計	国際財務報告基準をめぐる動向
第14回	税務会計	税金の種類、会計と税務の利益(所得)計算上の相違
第15回	新しい会計領域	公会計、環境会計、社会責任会計、企業価値評価など

②シラバスの実践型(椎名)モデル

しかし、この会計学総論(会計学入門)の理想モデルとしてのコア・カリキュラムは全国の大学に適用できるような最大公約数レベルで編成されており、これだけの内容であれば理想型として一つの共通指針となりえるものである。ただし、この理想型の問題は、教える側の論理に立脚して講義内容を総花的に詰め込んでいる点に問題がある。学生側から見れば、鳥瞰図的には理解できるかもしれないが、整理された知的体系の理解や大切なアカウンティング・マインドまで修得できるか問題である。また、一人の教員で担当できるかの問題やそれぞれの大学には学生の気質や全体のカリキュラムの中での会計学総論(会計学入門)の位置づけが異なる問題もある。弾

(14) 青柳文司著、『会計士会計学—改訂増補版』(同文館)、1974(昭和49)年、74~76頁。

(15) 日本公認会計士協会、柴健治(関西大学大学院教授)代表編「会計基礎教育に関する実態等の調査報告について」、第1章、7節、2018年5月。<<https://jicpa.or.jp/news/information/files/c6362d19bc9ecac7c81d89cc72c330aa.pdf>>、(2018年6月14日アクセス)

(16) 「MINI ファイル 会計基礎教育の歴史」、『週刊経営財務』(税務研究会)、2018(平成30)年7月16日号、No.3367、46頁。

(17) 私立大学教育情報学会・会計教育IT活用研究委員会編、前掲書(9)、113頁を一部修正。本モデルは中部大学阿部仁教授と筆者がチームを組み、完成したものである。

力的な運用こそ教育の要なら、実践型モデルを研究しなければならない。

筆者の所属する商学部の人事の関係で2016（平成28）年度から初めて2年生を対象とする会計学入門・会計制度論（商学部）、会計学総論（法学部一学年）の授業を急きょ受け持つことになり、使用教材の問題に直面した。会計学総論や会計学入門の書籍は多く市販されているが、限られた授業回数の中でのアカウンティング・マインドを修得させ、本論文の趣旨や私の研究に適合する内容の教材を見つけることは困難であった。新しい教材を急いで自己開発するしかなかった。シラバスを独自開発して（図表2）、2年間、毎年少しずつ変更を加えた。商経論叢の本号と次号で論じる教材開発を行った⁽¹⁸⁾。実際の授業では回数と実際の進捗度が異なることもあったが授業は2年間で終了し（後任の教員が採用されたため）、レポートや試験結果もクラスの雰囲気も授業評価も全体に平均値以上で良かったように思える。

2年間の講義では、前節(2)ラーニング・アウトカムに基づくコア・カリキュラムの教育目標は、**(2) 標準到達レベル**を意識して行ったが、出席レポートや演習問題を多用して個人へのアドバイスを遂行して、学生

への問題意識を喚起することに努めた。また、シラバスの回数の内容は目安であり、当然、実際の授業での学生の反応やその都度理解力を試す出席レポートや演習問題により、各講義内容は変化する。シラバスが安定するまでは3-4年は要すると思われる。

後で事例紹介する教科書など使用教材とシラバスの全体の流れとは当然関連性があることが望ましい。しかし、教科書の目次や会計学の体系をシラバスのように機械的に分けることは実際の授業運営上からみて無理が生じる。シラバスは、学生の予習を手助けし、講義モデルや講義全体の方向性を示す機能はあるが、反面、シラバス通りの計画優先では機械的に前に講義スケジュールを進めてしまう問題点もある。

むしろ、実際の授業運営では学生の理解度や表情を見ながら、時としてシラバスの予定を変更して、理解できていない箇所をもう一度再講義することもあり得るし、それが生きた授業である。工場のオートメーションのようにシラバス厳格遵守主義が貫けるには、講義内容の確定と演習、発表、授業レポート等の理解度チェック・システムを完成させる必要がある。これには、3-4年間の実証的体験が必要となるであろう。

(図表2) 会計学総論（会計学入門）シラバス実践型（椎名）モデル

2016年度、2017年度会計学総論（会計学入門）シラバス（一部修正）	
第1回	会計の意義と社会的機能（コミュニケーションとしての社会的役割と測定・伝達機能 - Accountability）
第2回	会計の目的観の変遷（利害調整機能と情報提供機能）
第3回	会計の構造と機能（簿記、財務諸表、管理会計、監査、税務、経営分析と会計判断）
第4回	会計学の体系と特徴（会計情報のそれぞれの特徴と情報から観た会計）
第5回	予算や簿記と財務諸表の関係（計画、実施、統制の経営管理機能と会計の関係）
第6回	会計の一巡の手続（予算から簿記へ、簿記から財務諸表へ、財務諸表から監査、税務そして財務分析へ）
第7回	利益計画と資金計画の概要（利益計画の重要性とそれを裏付ける資金計画の作成）
第8回	製造予算と原価計算（製造業における会計の特徴と原価計算の構造）
第9回	固定費と変動費と損益分岐点（企業管理の重要な指標と損益分岐点分析）
第10回	ESG投資など新しい経営分析の理解と統合報告書
第11回	営業・投資・財務の3つの企業活動の分析と会計の役割
第12回	3つの企業活動と財務諸表の関連（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の構造）
第13回	簿記の本質とその構造（単式簿記から複式簿記、複式簿記の構造）
第14回	簿記と財務諸表の関係（簿記から誘導される3つの財務諸表の理解）
第15回	会計の本質とアカウンティング・マインド（会計基準の国際化含む）

(18) 2000（平成12）年より2007（平成19）年までの7年間、我孫子市高野山にある日立製作所ビジネススクール・日立総合経営研修所での会計学特別講師を務めた。その際、現場での実務家養成用に作成した“Accounting”の教材を基礎に学生用に内容を改めて追加修正を施したものを教材開発した。

2. 会計原理（会計学総論）の教材開発 実例研究（1）

—オリエンテーション編と会計原理編—

私の教材開発の基本的フレームワークは4編から成り立つ。まず、第1編では発想の転換を通して学問の考え方を講義するのがオリエンテーションである。それを受けて、第2編では、アカウンティング・マインドの中心となる会計原理が展開される。具体的には、アカウンティング・サイクル（会計手続の一巡）の中で、会計学の学問体系やその中軸となる複式簿記を中心とした測定構造とそこから導かされる財務諸表を通じた伝達の講義内容となる。アカウンティング・サイクルでは、管理会計と財務会計の有機的な関連性の理解も重要である。

第3編は、会計を取り巻く会計制度の展開となる。ここでは、会計基準や国際財務報告基準の個々の条項の意味や解釈論より、制度の基底を形成する社会システムの構造の理解が重んじられる。会計制度の内容で重要なことは、この制度の本質とトライアングル体制と呼ばれる我が国の会計制度や国際財務報告基準との関連性を教えることである。そして、それ以上に強調されることは実際の企業の会計数値をIR情報から導き、財務分析の基礎的理解を通して生きた教材として会計数値を利用することにある。学生が最も会計を身近に感じる瞬間である。貸借対照表や損益計算書双方に関連したROE（Return on Equity）などを中心とした財務分析はアカウンティング・マインドの養成に不可欠である。

そして、第4編は重要な講義内容を復習し、その都度講義の理解度を認識するための演習問題から成り立っている⁽¹⁹⁾。なお、全体の目次や各講義別タイトルは、2年生の学生が身近に感じて興味がわくように“くだけた”表現となっている。以上の4編の内、紙幅の関係で商経論叢の本号では教材開発実例研究のうち第1編のオリエンテーションと第2編の会計原理編を検討し、次号で第3編の会計制度編と第4編の演習編を検討することとする。

(1) 第1編 オリエンテーションの目次と教材の着眼点

①オリエンテーションの目次

授業に入る前のオリエンテーション

1. 賢く生きる高校と大学の勉強の相違！
2. そこで「本当とかよォー」の精神を試すクエッション
3. 長く景気の実感がわからない日本経済—どうなるニッポン！
4. 商学のビジネス〔経営と会計〕を考える！
5. Maslow先生の5つの人間解剖—君の心の中をのぞいてみよう！！
6. 歴史を動かす経済と国家と共同体の理解

②オリエンテーションの教材の着眼点

a) イノベーションと学問の発想の転換

第1編オリエンテーション（プロローグ）で重要なことは、学問の考え方をその基礎常識の非常識や通説的な見解を批判的合理主義で学ぶことである。端的に表現すれば目次の項目にあるような“「本当とかよォー」の精神を試すクエッション”を通して真理や学問におけるイノベーションを教えることに主眼がある。イノベーションといえば、シュムペーター（J. A. Schumpeter）の資本主義経済を発展させる原動力としての「企業家（Entrepreneur）」であろう。シュムペーターは常に創造的な破壊をしていくイノベーターとして企業家をとらえる⁽²⁰⁾。

それは、ロビンソン・クルーソーをモデルとしたホモ・エコノミストよりもっと活動的で市場メカニズムを超越した位置づけである⁽²¹⁾。学問におけるイノベーションとして経済学ではアダム・スミス（Adam Smith）に対するケインズ（J. M. Keynes）経済学の意識改革、経営学では企業の目標は利益追求ではなく顧客の創造にあるとするドラッカー（P. F. Drucker）の意識改革などを例にあげている。ドラッカー⁽²²⁾は経営学を単なる経営手法ではなく倫理観と責任感とイノベーション力のあるマネ

(19) ビデオやシャトルカード、小テストなどの授業の振り返りの重要性については、佐藤浩章編『大学教員のための授業方法とデザイン』（玉川大学出版部）、2012年、52～61頁。

(20) シュムペーター著、塩野谷祐一・中山伊知郎・東畑精一訳『シュムペーター 経済発展の理論（上）』（岩波書店）、1977年、198～209頁。

(21) 椎名市郎稿「会計における人間の問題」、中央学院大学創立20周年記念論集『現代経済・社会の歴史と論理』（第一書林）、1986（昭和61）年。

(22) P. F. ドラッカー著、上田淳生訳『マネジメント—基本と原則』（ダイヤモンド社）、2010年。「企業の目的は利益を上げることで

ージャーという人と組織⁽²³⁾を考えるパラダイムシフトをなした人物である。マズロー (A. H. Maslow) の自己実現の経営に見る5段階欲求説もしかりである。

教室では、難しいイノベーション理論を展開するより、松下幸之助 (National-Panasonic)、井深大 (Sony)、本田宗一郎 (Honda) の日本を代表するイノベーション起業家の事例などをあげると学生は身近に感じることができる⁽²⁴⁾。私は、若者になくなくてはならない現代のコンビニ文化を日本に初めて導入した鈴木敏文氏の苦闘の歴史を日本経済新聞に掲載された「やさしい経済学」のコピーを配布して道を切り拓く意味を語った⁽²⁵⁾。

かつての我が国の原価主義を基本とする「企業会計原則」時代から、公正価値評価を基本とする「国際財務報告基準」時代へのパラダイム・シフトにこのオリエンテーション教育は役立つと思われる。

b) 社会システムと会計

また、経営事象や経営学を語る際に、「企業」、「経営」、「事業」という類似概念が概念規定なく使用されている事例を散見する。特に、教室では企業と経営は同じような概念で使用される場合が多い。しかし、「企業」という場合、株主や債権者などの資本結合を述べるときに最適な用語である。一方、「経営」はCEOを頂点にした組織の権限関係やそこから生じる経営管理手法を述べるときに適した概念である。さらに「事業」は、購入、製造、販売、物流、保管、保守、管理、財務などの業務活動を述べるときに適した概念である⁽²⁶⁾。専門用語を教室で使用するときにも教育者側の知見が求められる。

また、会計学を取り巻く社会システムの構造の理解も大切である。すなわち、利益追求、商品開発と効率性を

求めて利益・資本拡大を求める資本主義経済は、一方では、経営者や資本家と労働者の不公平な分配や劣悪な労働環境を生み、公害に象徴される環境汚染を排出する。会計でいえば利益至上主義に会計が利用されやすく、不正会計の温床ともなる。これを放置すれば、経済格差や階級・階層の対立が発生する。

この対立を防ぐ社会システムが共同体のネーションであり、もう一つは国家である。共同体とは、血縁、地縁、言語、宗教等の精神性や共感で結びついた人間である。共同体では贈与や互換の交換様式の下で共通性と平等性という理念で利益追求や商品開発、効率性を求める資本主義経済の歪みを是正し、ガバナンス・コードの強化も含め資本主義経済の矛盾解決を志向する⁽²⁷⁾。

資本主義経済の歴史は現代に限らず過去も、グローバリズムと国家との抗争・癒着の歴史である。利益追求のために国境を越えて拡大する資本の論理と国民生活を安定させるという国家の目標は根本的に矛盾する側面を有している⁽²⁸⁾。会計に例をとれば、利益至上主義の資本主義経済では独占や寡占で自由競争が阻害され、環境汚染や所得格差、企業統治を無視した不正会計が醸成される土壌がある。このため国家（または国の権威の裏付けのある機関）が会計法規での規制や罰則を強化し、その暴走を防ごうとする。その国家の規制の背景には、共同体の共通性や平等性を求める理念が横たわっており、その意味で共同体は国家と資本主義経済の癒着をも監視している。

この共同体の共通性・平等性の理念は、資本主義経済や国家がもたらす矛盾を解決し、破綻を防止する機能がある⁽²⁹⁾。このように、共同体には共通性・平等性に基づ

はなく顧客の創造にある」(15頁)、「マーケティングは企業が何を売るのでなく、顧客が何を求めているかを知ることにある」(17頁)、「イノベーションとは発明ではなく、より多くの富を生み出す新能力を意味する」(18頁)などに代表される通説への発想の転換。

- (23) ジュニー・ダロック (米ピーター・F・ドラッカー伊藤雅俊経営大学院学長) 稿「有訓無訓」、『日経ビジネス』(日本PB社)、2017年11月13日号、1頁。
- (24) 日本のイノベーションを成功させた3人の偉人に共通するのは、Want (欲する)・Believe (確信する)・Do (とにかくやる) の3つが本質にあると分析している。「イノベーションを起こす3つの本質」、『日経ビジネス』(日経BP社)、2018年7月23日号、39~41頁。
- (25) 鈴木敏文稿「やさしい経済学入門—事業を興す 第6回障害を壊す」、日本経済新聞社、2002年4月8日付朝刊、「やさしい経済学入門—事業を興す 第7回 挑戦の継続」、日本経済新聞、2002年4月9日付朝刊など。
- (26) 山本安次郎著『経営学方法論』(丸善出版)、1970年、96頁。
- (27) 椎名市郎稿「複式簿記の原理とその論理的導入法 (13) VIII 会計原理の教材開発研究の視座」、『中央学院大学商経論叢』、第32巻第2号、2018年3月、59頁。
- (28) 佐伯啓思著『貨幣と欲望—資本主義の精神解剖学』(筑摩書房)、2013年、22~23頁。
- (29) 柄谷行人著「第3部、第3章 ネーション」、『世界史の構造』(岩波書店)、2015年、332~333頁。椎名市郎稿、前掲論文(27)、60~61頁。

く道徳的感情や共感が横たわっているのである。それぞれの国家や同一経済圏内にある会計制度の中心をなす会計基準はこのような社会システムの構造の中で認識する必要がある。

c) 会計の限界

次の問題は、国家は国民の共通性・平等性を重んじる意思を尊重し、資本主義の利益追求の暴走を防ぎ、法律（会計法規含む）を策定するが、法律にしても会計制度にしても絶対的普遍的な法則はなく、国や企業や国民のエゴ（自己愛）の妥協案として成立していることである。すなわち、Convention（コンベンション＝擬制を意味し社会の合意と拘束が特徴）の産物が会計法規（会計基準）の本質なのである。Conventionとしての会計基準の特質と限界がここにある。会計制度を強化し、監査制度を補強しても物差しの会計基準自体に限界があることもアカウンティング・マインドの養成につながる。

会計制度の根幹は最終的には人間の健全な意見と判断が基底にあり⁽³⁰⁾、それゆえ、アカウンティング・マインドの育成が重要となる。世界共通会計基準である国際財務報告基準（IFRSs）でも共通性を重んじるための概念フレームワークという演繹的アプローチとその運用にあつたては各国・各企業の会計慣習を重んじる原則主義を採用していることにも現われている。

会計は会計基準など一定のコンベンションの土俵の中で測定・伝達するものであつて企業活動や人間の経済活動すべてを表現できるものではないし、会計基準が変化すれば、当然、測定値が変化する。そもそも会計は測定の技術であり、この測定技術は具体的には、人間が一定の会計基準に従って対象を数字に当てはめるプロセスである。このルールの一つが日本における会計基準や国際財務報告基準に他ならない。したがって、会計基準が機能するためには、そのルールがある条件下で合理性を持ち、かつ国家等の強制力を有することが必要である⁽³¹⁾。

このように考察してみると、かつて身分や階級などの社会関係としての社会システムに包含されていた資本主義経済が、今度は資本主義経済システムの中にその社会

関係を組み込み社会関係は経済の中に埋もれてしまっていることが理解される⁽³²⁾。近年の社会システムはこの経済を基軸に動いているとよいてよい。それに伴い、経済や経営、会計の社会における役割の比重が増大してきて現代に至っているといえる。

第I編オリエンテーション編に限らず、人間が使用する言語が全ての真理を説明できないように、教材においても全ての要素を織り込むことは不可能である。教材はあくまでも教室において学生と教員をナビゲートする役割に留まる。教材で言い尽くせない多くの原理は教員が教室で語り継がなければならない。研究と教育が大学教員の使命であるなら、教材を他者に委ねるのではなく、担当教員自身が開発することが大学教育で重要なことと思われる。教室に教員の魂が強く吹き込まれるからである。

(30) 黒澤清稿「企業会計原則訳解」、黒澤清編著『解説企業会計原則』（中央経済社）、1968（昭和43）年、64頁。椎名市郎稿、前掲論文（27）、61頁。

(31) 伊藤邦雄著『会計制度のダイナミズム』（岩波書店）、1996年、428～429頁。椎名市郎稿、前掲論文（27）、65頁。

(32) カール・ポランニー著、玉野井芳郎・平野健一郎編訳『経済の文明史』（筑摩書房）、2003年、65頁。ポランニーは経済システムを再び元の社会の中に吸収する必要性を説く（68頁）。

(2) 第1編 オリエンテーションの教材開発の実例研究

学部2年生対象・会計学総論（会計学入門）教材事例

Accounting

Accounting

椎名市郎



講義方針

- 【1】これから「Accounting(会計)」のエッセンスを講義します。
- 【2】本題の前に大切な大学での学びのオリエンテーションを行います。
- 【3】本講座は会計の専門知識のない2年生を対象とした教材です。
- 【4】講義の内容は ①会計一巡の手続きと予算制度、②簿記と貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の知識と ③この財務三表の読み方や財務分析の方法の3つです。
- 【5】講義時間制約上、連結財務諸表は含みません。
- 【6】本教材以外に配布プリント（国際財務報告基準等）も使用します。
- 【7】講義理解度や復習のために講義の節目に演習レポート提出を求めます。レポートは採点と添削を付して翌週返却し、成績に加算します。
- 【8】講義教材は15回シラバスのように毎回授業ごとに章立てされていません。実際の授業では形式的な進捗度より、体系の理解と皆さんの理解度に応じた弾力的な授業運用が大切だからです。

授業に入る前のオリエンテーション

1. 賢く生きる高校と大学の勉強の相違！

- (1) 高校までの勉強は、教科書を忠実に学ぶ勉強。
- (2) 大学の勉強は教科書を深く専門的に勉強し、常識を疑う勉強もする。

[少し常識を疑う例]

- ① 1492年、() がアメリカ大陸を発見⁽³³⁾ したということは本当のことかなあ～？
- ② ルネサンスの三大発明。まず、火薬、羅針盤、そしてグーテンベルグの() だ。では、世界最古の印刷物はどの国に現存しているの？一つの説は() だ⁽³⁴⁾ ！！
- ③ ポルトガルでは1543年にポルトガル人が() を発見したと教えている。これ本当ノオのこと？
- ④ アメリカでは() の進化論を学校で教えないように訴訟が起こされている。Why??

2. そこで「本当とかよォー」の精神を試すクエッション⁽³⁵⁾

- (1) みなさんは人間がタコやエビより優れた動物と思いますか？
- (2) お互いに愛し合うことは人間にとって素晴らしいことなのに、なぜ同性愛者は差別されるのでしょうか。
- (3) 古代から人間がいる限り、戦争が絶対なくなるのはなぜでしょう。
- (4) 個人が人を殺すと死刑になり、国家が戦争で大量に人を殺しても命令を下した大統領が罪にならないのはなぜでしょうか？

ある回答例：_____

大量殺戮を繰り返し、地球をゴミで汚しつくし、毎日殺人事件を起こす人間は、タコやエビより知恵がある動物と思うのはおごりである。

人間の中には既存の制度を破戒し、他人を傷つけることに快感を感じる本性がインプットされている。一度残忍な行為をするとエスカレートするのはこのためである。

だから、本当の勉強をして自分を見つめないとダメなのである。

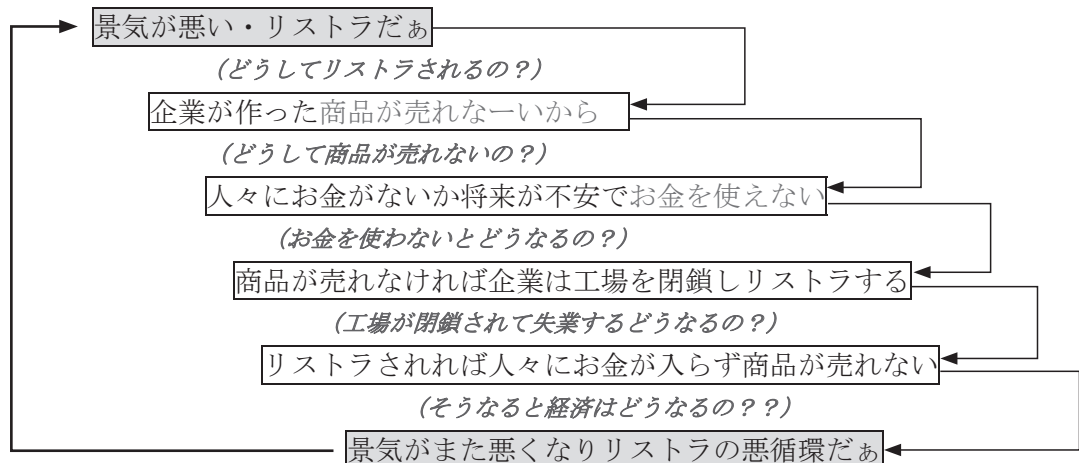
(33) 「アメリカ大陸の発見」—Wikipedia <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%A1%E3%83%AA%E3%82%AB%E5%A4%A7%E9%99%B8%E3%81%AE%E7%99%BA%E8%A6%8B> (2016年5月24日アクセス)

(34) 「金剛陀羅尼教」—Wikipedia <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%87%91%E5%89%9B%E5%A0%B4%E9%99%80%E7%BE%85%E5%B0%BC%E7%B5%8C> (2017年3月20日アクセス)

(35) 栗本慎一郎著『パンツをはいたサル—人間はどういう動物なのか』（光文社）、1982（昭和57）年、12~16頁他。

3. 長く景気の実感がわからない日本—どうなるニッポン!

アダム・スミス先生から J.M. ケインズ先生への奮闘物語



① アダム・スミス先生の考え方—神様の見えざる手に任せよ〔放任主義〕
(1776年アダム・スミス『国富論』)

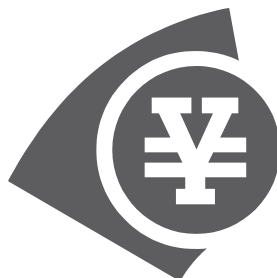
○お父さんが給与を高く要求しているから、自然にまかせていれば
会社とお父さんの話し合いがついて経済は立ち直り失業が減る考え方。

② J.M.ケインズ先生の考え方—国家が介入しなければ良くならない
(1936年 J. M.ケインズ『雇用、利子及び貨幣の一般理論』)

○一般の企業に元気がなければ、国がお金持ちから国債でお金を借りて
公共事業〔ダムや道路、鉄道網〕をして失業者を集めてお金を配ればよい。

③ 現代の経済学の抱えている大問題は???? (2017年末、国が抱える
国民一人当たりへの借金約700万円をどうするの?)

○今、国が借金で倒産しかかっているよとも聞こえる財務省側の主張!!

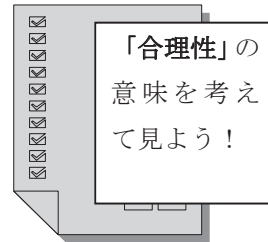
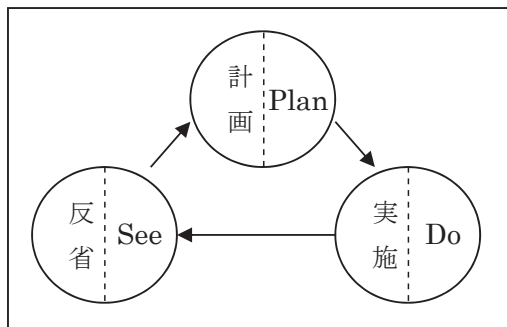


2017年度末、898兆円を超える日本の借金(主に国債)があり、地方自治体の約195兆円の借金(地方債等)も加えると、日本経済の財政への信頼度は危険領域にあるとの見方もある⁽³⁶⁾。国債は国民の国への貸金で貯蓄額(1800兆円)も高いので、国は破たんしないという説もある。
ケインズ先生の経済政策は限界なのかな!?

(36) 「国の借金」 < <http://www.takarabe-hrj.co.jp/c> > (2018年3月20日アクセス)。

4. 商学のビジネス〔経営と会計〕を考える！

- (1) ビジネスとは経営のこと、では商学部で学ぶBusinessとは？
 あいつ「合理的⁽³⁷⁾なやつ」という場合の3つの合理性を学ぼう！
- (2) まず、合理的な経営ができること。では経営とはなんだァー？



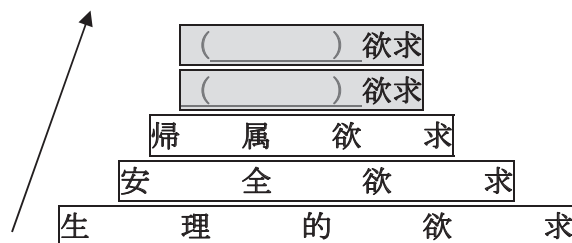
*最近では Plan-Do-Check-Act と表現する。

- (3) 次に危険を分散できるヤツ。
 危機管理—先行して保険をかけるヤツは偉い！
 保険でリスク回避しないとネ。
- (4) 最後に「簿記(ぼき)・会計(かいけい)」のできるヤツはもっとすごいゾ。
 感情や経験のみでなく冷静な数値で物事を判断できるヤツ！
 (例) 今日のこの授業に君はいくら払っているか(1年生を前提)
 大学への初年度入学金・授業料 1,500,000円
 一人暮らしの月の最低費用 1,200,000円
 春・秋合計12科目履修したと仮定して、1年間に30回90分講義を受けたとすると、今日のこの1回90分時間の講義にいくら支払っているかな？

$$2,700,000 \div 360 \text{回} = 1 \text{回の講義代金} 7,500 \text{円}$$

5. Maslow 先生の5つの人間解剖—

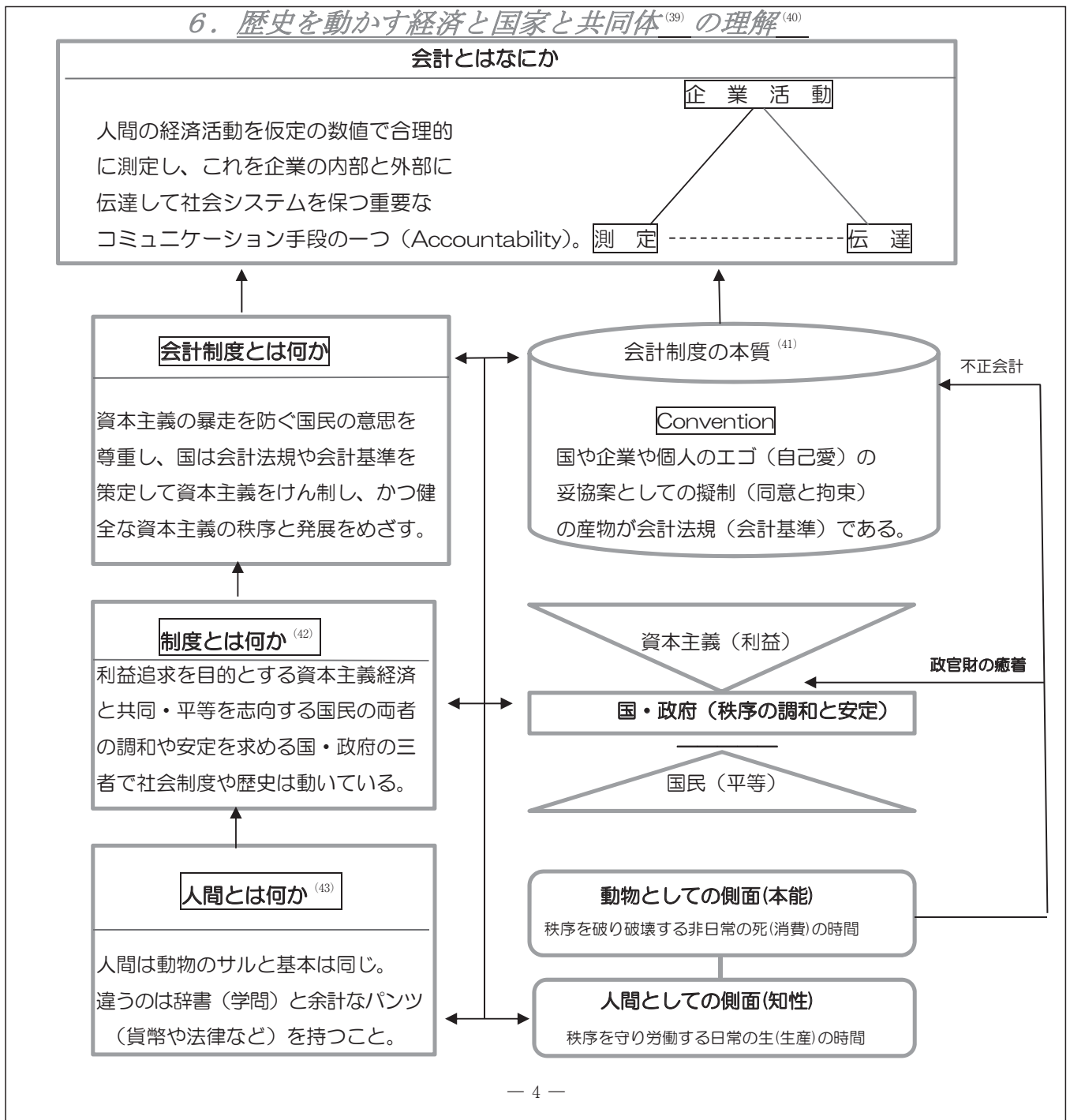
君の心の中をのぞいてみよう⁽³⁸⁾！！



*お金の欲しい欲求はどこに入るの？

(37) 近年の行動経済学の発展は、人間は必ずしも合理的な行動に終始するのではなく非合理的な行動を行う人間のもつ二元性の研究が進んでおり、会計学研究にも文化・宗教・慣習等の研究深化が求められている。山地秀俊稿「会計学研究に対する方法論の誕生—人間の二元性に向き合う」、雑誌『企業会計』(中央経済社)2018年1月号、89~95頁。

(38) アブラハム・H・マズロー著、原年廣訳『自己実現の経営—経営の心理的側面』(産業能率協会)、1979(昭和54)年、13~14頁。



(39) 人類の行動様式が大幅に経済に振れてしまったことで経済格差や地球環境破壊、金融危機等の深刻な問題が生じている。現代にもう一度人間の時代に戻すために会計はどのような役割を果たすべきかを再考する研究もある。國分克彦著『アカウンタビリティから経営倫理へー経済を超えるため』(有斐閣)、2017年、4～8頁。

(40) 椎名市郎稿、前掲論文 (27)、62頁 (図表1) 引用修正。

(41) 青柳文司著、前掲書 (14)、75頁。

(42) 柄谷行人著、前掲書 (29)、2～3頁。

(43) 栗本慎一郎著、前掲書 (35)、12～16頁他。

(3) 第2編 会計原理の目次と教材の着眼点

①会計原理の目次

- [I] Accounting とはなんだろう？
 - [1] Accounting (会計) の意義
 - [2] 会計の目的は4つ！
 - [3] まず会計のしくみ (構造) を把握しよう！
 - [4] 会計のはたらき (機能) も把握しよう！
 - [5] 会計の入門はまず「簿記」と「財務諸表 (決算書)」！
- [II] 会計手続きの一巡を考えるの巻
 - [6] 会計手続き一巡—Accounting Cycle
 - [7] 利益計画と資金計画
 - [8] 製造予算と原価計算
 - [9] 変動費と固定費の区別
 - [10] ESG 投資などの新しい経営分析と統合報告書
- [III] 企業活動と会計との密接な関係
 - [11] 会計から見た企業活動の3つの形態
 - [12] 企業活動と3つの財務諸表との関係
- [IV] 会計の基本—簿記の構造
 - [13] 簿記の魔法の力を考える
- [V] 簿記と財務諸表を理解する方法
 - [14] 簿記と財務諸表を具体的に考えて確認する
 - [15] (決算後表式) 試算表による簿記の流れ
 - [16] 簿記の構造からB/S P/L C/F の関係を考える
 - [17] 簿記の構造—B/S P/L の関係を復習する

②会計原理の教材の着眼点

a) 会計原理のコアとアカウンティング・マインド

会計原理の研究の基底にあるものは、たとえば、財産管理思考や内部統制、受託責任と Accountability、会計機能の測定と伝達、ディスクロージャー制度、会計情報の持分保護機能と情報提供機能、複式簿記の構造 (手続きの二重性と均衡性、投下資本回収計算)、そして、経済体制、階級や階層、民族や会計文化などが研究対象である⁽⁴⁴⁾。会計の会計たる所以が会計原理であり、これを筆者はアカウンティング・マインドと概念付けている。第2編の会計学原理で重要なことは、会計の意義と構造、そしてその機能を伝授することである。

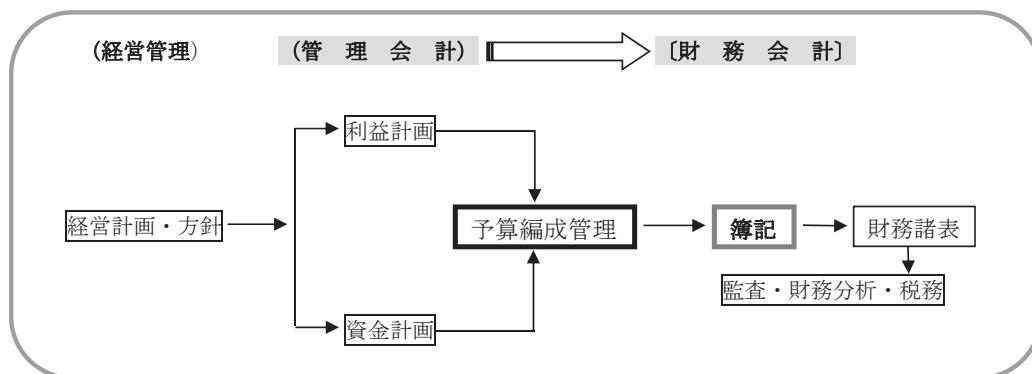
b) Accounting Cycle

具体的には、会計の専門知識のない2年生には会計手続きの一巡—Accounting Cycle の理解がまず肝要である。つまり、1年間を基本にした会計のサイクルは、まず管理会計における予算編成からスタートして、その実績把握の記録としての財務会計の簿記や財務諸表、監査、財務、財務分析の流れである。経営管理の中での Plan-Do-See (Check-Act) のマネジメント・サイクルに会計がその都度果たす役割を理解させることが重要である (図表3)。

c) 複式簿記の構造

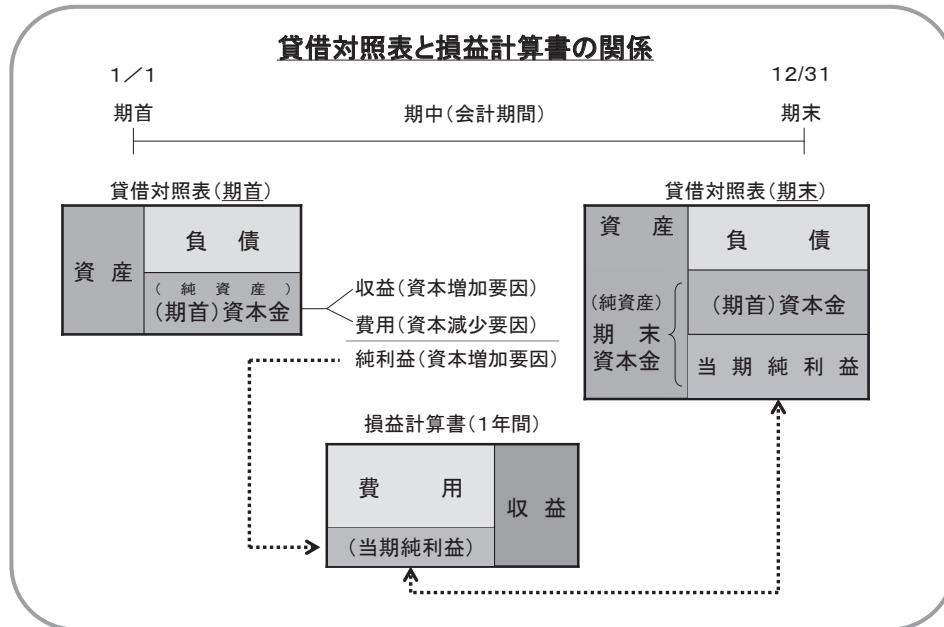
次に、会計原理の中核であり、アカウンティング・マインド養成の最重要ポイントが複式簿記の構造と貸借対照表と損益計算書の関係である。それは、貸借対照表を機軸とした資本概念の有機的結合を理解させることに通じる (図表4)。

(図表3) Accounting Cycle



(44) 椎名市郎稿「複式簿記の原理とその論理的導入法 (I) I 会計哲理 II 複式簿記導入法のステップ」、『中央学院大学論叢』、第14巻第2号、1979 (昭和54年) 12月。

(図表 4) 複式簿記の構造



d) 会計原理と人間の問題

会計原理の根幹は最終的には人間 (CEO や CFO) の健全な意見と判断が基底にある。アカウンティング・マインド養成の最重要ポイントの複式簿記の構造においてもしかりである。リトルトン (A.C.Littleton) は複式簿記の特徴である取引事象を借方 (debits) と貸方 (credits) に分けて勘定に転記するプロセスを二つに分けて説明している⁽⁴⁵⁾。簿記の機構 (bookkeeping mechanism) と簿記の法則 (bookkeeping rule) である。前者の簿記の機構における帳簿や勘定はそれ自他無力であること、人間が後者の簿記の法則を一定の意思でそれを用いて帳簿や勘定を操作することで全体としての有機的関連が機能してくることを述べている。

すなわち、帳簿や勘定はそれ自体は無力であり、その各種の機構に一定の意思を遂行する方法を考察する想像力を有する人間の意志の指導 (the guidance of men's

mind-minds fertile in advising way of carrying out intentions) の働きかけによって簿記機構が有機的に機能し、総合的な組織として有効に運用されることを強調している⁽⁴⁶⁾。さらに、A. C. リトルトンは、複式簿記の歴史的考察を経た上での複式簿記の意義を、形式と実質に分けて次のように説明している⁽⁴⁷⁾。

すなわち形式的 (form) な意義は手続の二重性 (duality) と均衡性 (equilibrium) である。そして、実質的 (substance) な意義は、投下資本の資本主計算 (proprietary calculation of the gains from ventured capital) にあるとする。想像力を有する人間の意志の指導が、実質的な意義を遂行するために帳簿や勘定に働きかけて簿記の目的を遂行するのである。社会科学としての会計学における人間の問題が浮き彫りにされアカウンティング・マインドの重要なテーマとなる⁽⁴⁸⁾。

このことは、複式簿記や会計原理に留まらず、経営に

(45) A.C.Littleton, *Structure of Accounting Theory*, American Accounting Association, 1977, p.36. A.C. リトルトン著、大塚俊郎訳『会計理論の構造』(東洋経済新報社)、1995年、54頁。
 椎名市郎稿「複式簿記の原理とその論理的導入法 (V) (5) 複式簿記の技術的目的合理」、『中央学院大学商経論叢』、第2巻第1号、1987年9月、72頁。
 (46) A.C.Littleton, op.cit., p.37, A.C. リトルトン著、大塚俊郎訳、同上書、55頁。
 椎名市郎稿、同上論文、73頁。
 (47) A.C.Littleton, *Accounting Evolution to 1900*, New York, RUSSELL&RUSSELL, 1966. p.27. A.C. リトルトン著、片野一郎訳『リトルトン会計発達史』(同文館出版)、1978 (昭和53) 年、22~23頁。
 (48) 椎名市郎稿「会計学における人間の問題」、中央学院大学創立二十周年記念論集・中央学院大学総合科学研究所編『現代経済・社会の歴史と論理』(第一書林)、1986 (昭和61) 年。

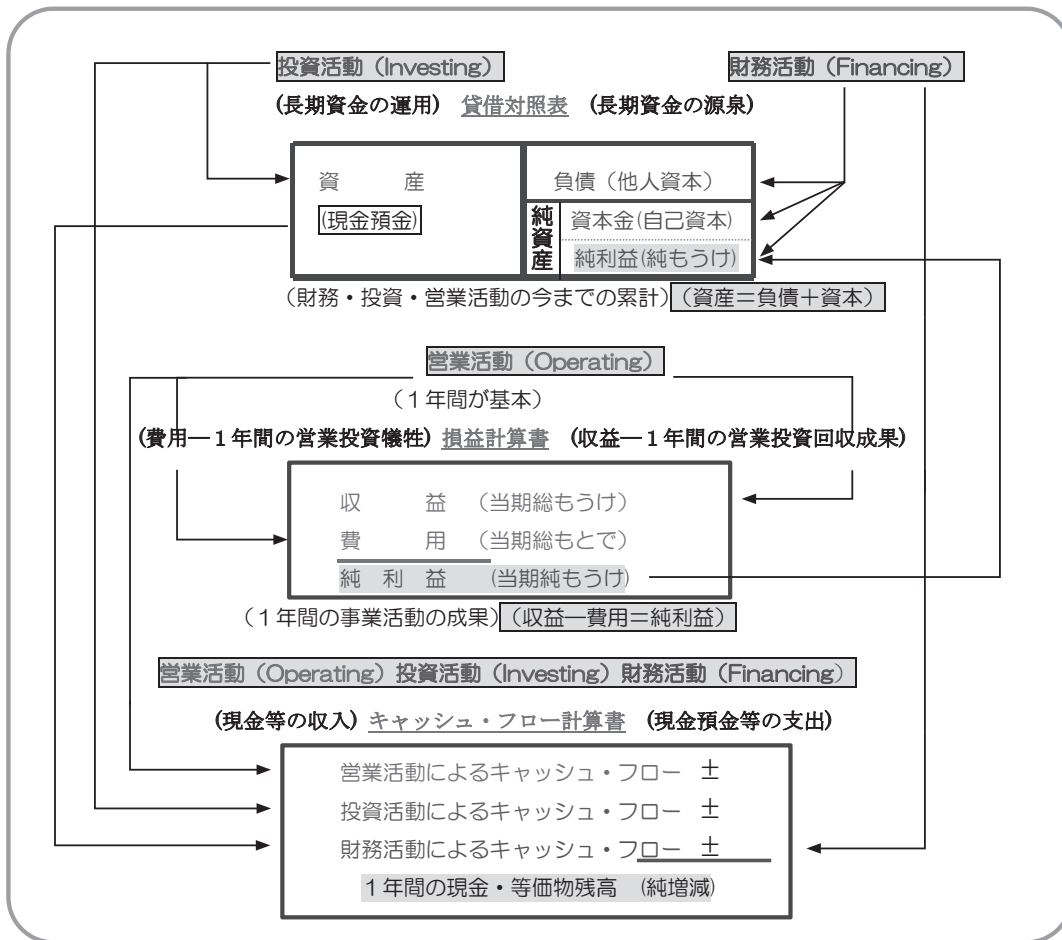
においても基本中の基本となる。かつて、キャプラン (E. H. Caplan) が提言した会計に行動科学を利用することで、積極的に組織における人間行動の問題を提示した⁽⁴⁹⁾。このことはウエルシュ (G. A. Welsch) の至言、— Obviously, control is attained in an enterprise through people, not through things (明らかなことは、企業の経営管理は物ではなく組織における人間にある) —に通じる⁽⁵⁰⁾。

e) 3つの企業の活動と財務諸表との関係

さらに、企業の活動を事業に必要な資金を調達する財務活動 (Financing) と投資活動 (Investing)、そして、営業活動 (Operating) に分けて説明し、その活動が貸

借対照表や損益計算書、キャッシュフロー計算書と有機的に結びついていることを教えることが大切である。財務活動 (Financing) は、株式や社債を公募し、銀行からお金を借り入れる活動を意味する。投資活動は財務活動で集めた資金は当然、事業に投資され活動を意味する。資材の購買活動をしたり、固定設備を購入したり、商標権を買い入れたりする活動である。そして、営業活動は具体的に年間の事業活動である仕入、製造、物流、販売、管理という企業の1年間の活動を意味する⁽⁵¹⁾。会計はこの3つの企業活動を測定・伝達する技術や思考であることを教授することが重要である (図表5)。

(図表5) 企業の3つの活動と財務諸表との関係



(49) E.H.Caplan, *Management Accounting and Behavioral Science*, AMA,1971, pp.38-40.

E.H キャプラン著、山口年一監訳『管理会計と行動科学』(白桃書房)、1976 (昭和51)年、46~48頁。

(50) G.A.Welsch, *Budgeting: Profit Planning and Control*, 4th edition, Prentice Hall, 1976, p.35.

(51) C.P.Stickney, R.L Weil, S.Davidson, *Financial Accounting-An Introduction to Concepts, Methods and Uses*, HBJ, 1991. p.13.

(4) 第2編 会計原理の教材開発の実例研究

I. Accounting とはなんだろう

【1】Accounting (会計) の意義

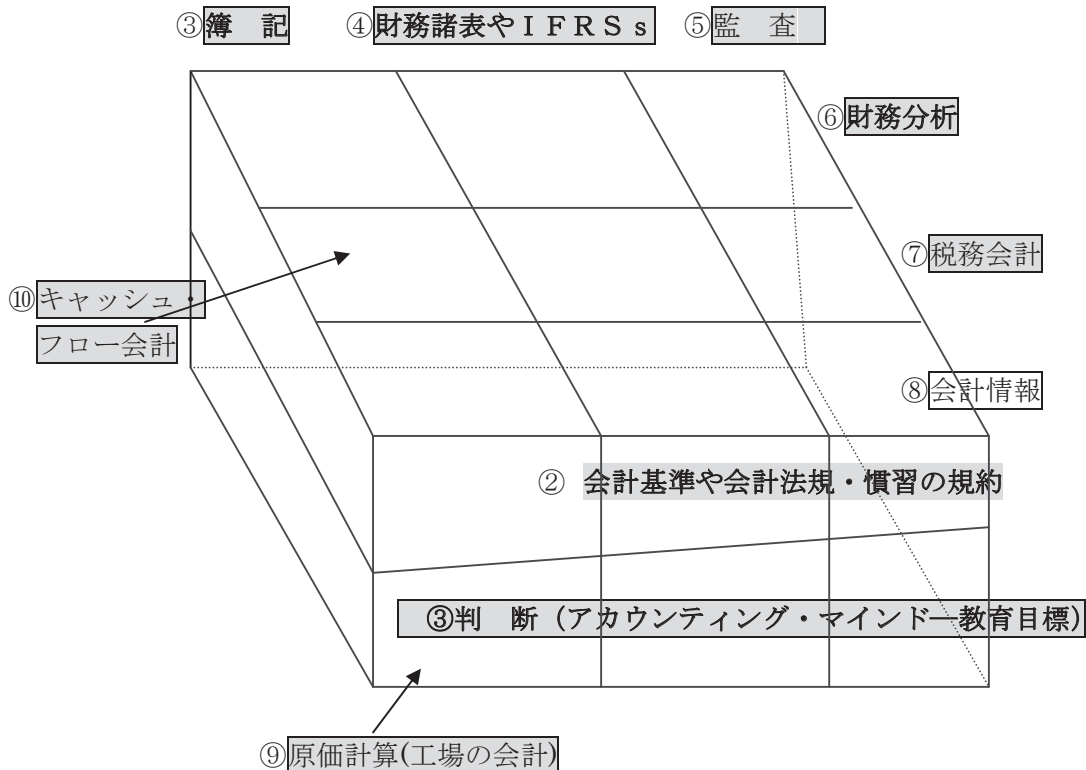
Accounting (会計) は簿記などの独自の会計手法を用いて、人間の経済活動を数値で合理的に測定し、その結果を利害関係者に伝達する技術や思考を意味し、社会（企業の内と外）の重要なコミュニケーション(Accountability)手段の一つとなっています。

【2】会計の目的は4つ！

会計を実施する目的は、①企業の日常の財産管理や経営改善の判断基礎材料を取得するため、②企業の体力である財政状態や血液であるキャッシュ（現金等）の状況を測定するため、③企業の経営能力である営業成績を測定するため、そして、④これらを利害関係者に効果的に伝達するためです。

【3】まず会計のしくみ（構造）を把握しよう！

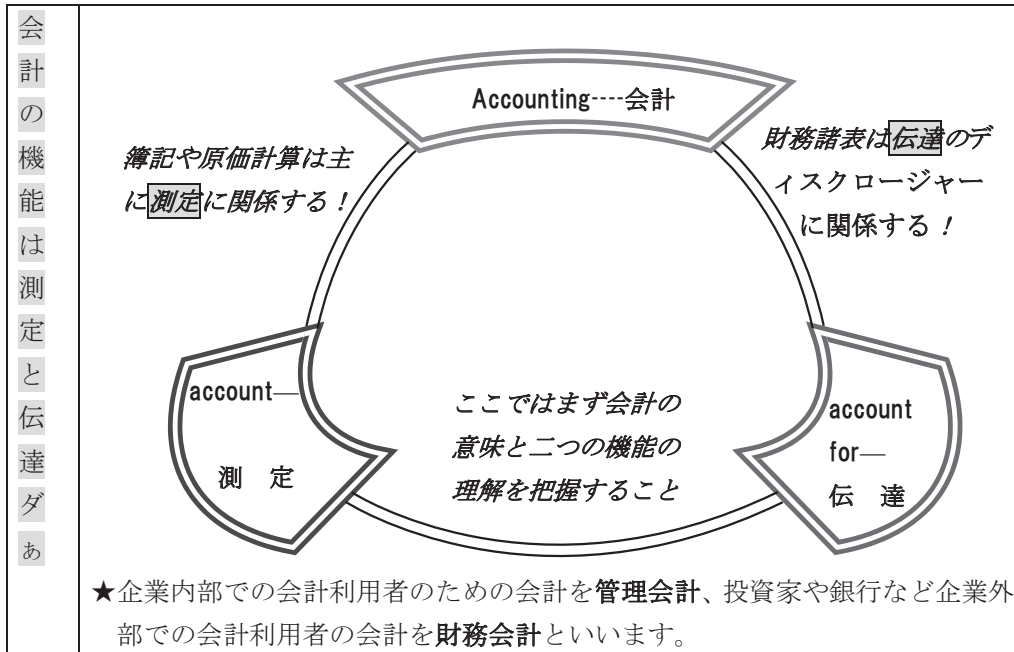
会計(学)の全体のしくみ(構造)がどうなっているかをまず考えてみましょう⁽⁵²⁾。IFRSsとは国際財務報告基準の略称です⁽⁵³⁾。



(52) 青柳文司著『会計・情報・管理』（中央経済社）1979（昭和54）年、105頁一部加筆。

(53) IFRSsとは、国際会計基準(IAS、International Accounting Standards)・国際財務報告基準(IFRS、International Financial Reporting Standards)と国際会計基準・解釈指針書(SIC)・国際財務報告基準・解釈指針(IFRIC)の総称を意味する略表記である。

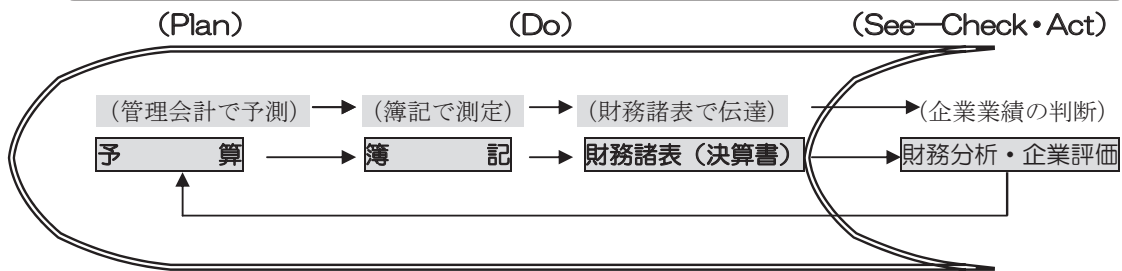
【4】 会計のはたらき（機能）も把握しよう！



会計を利用目的によって機能的に分類すると財務会計と管理会計に区別されます。①**財務会計**は企業の外部の利害関係者〔株主や銀行など〕が財務諸表等を利用する場合の**過去**情報を主とした利害調整会計です。②**管理会計**は企業の内部の利害関係者〔経営者や各事業部や部門担当者〕が経営効率改善のために会計情報を利用する**将来**情報を主とした意思決定・業績評価会計です。管理会計の主題は**予算統制**を中心にした**利益計画**や**資金計画**です⁽⁵⁴⁾。

【5】 会計の入門はまず「簿記」と「財務諸表(決算書)」！

会計は企業の活動を**予算で管理**し、実績を**簿記で測定**します。それを月別の月次財務諸表や3ヶ月に一度の**四半期決算短信**（半年に一度の**中間財務諸表**）、1年に一度の**最終決算財務諸表**等で企業の内と外の利害関係者に伝達します。

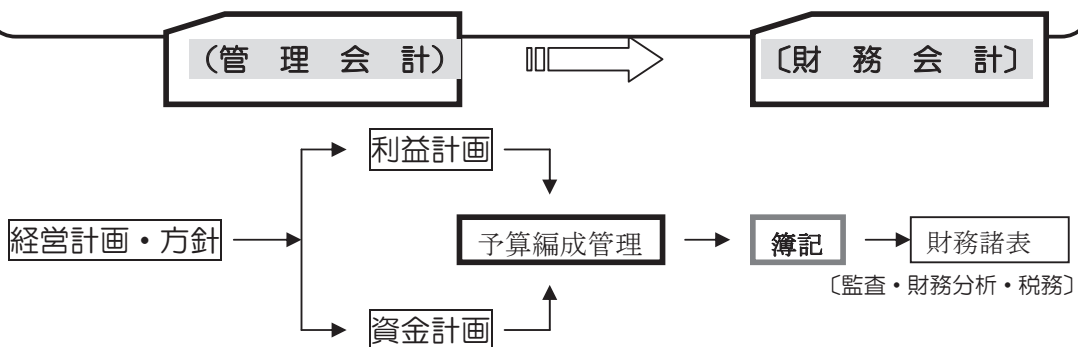


(54) 椎名市郎著『簿記論—基礎・応用・実践』(税務経理協会)、1989年、12～13頁。

Ⅱ. 会計手続きの一巡を考えるの巻

【6】 会計手続きの一巡—Accounting Cycle

1年間を基本にした会計のサイクルは、まず**管理会計**における予算編成からスタートして、その実績把握の記録としての**財務会計**の簿記や、その成果報告書として**財務諸表**〔通称—「決算書」〕の流れとなります。

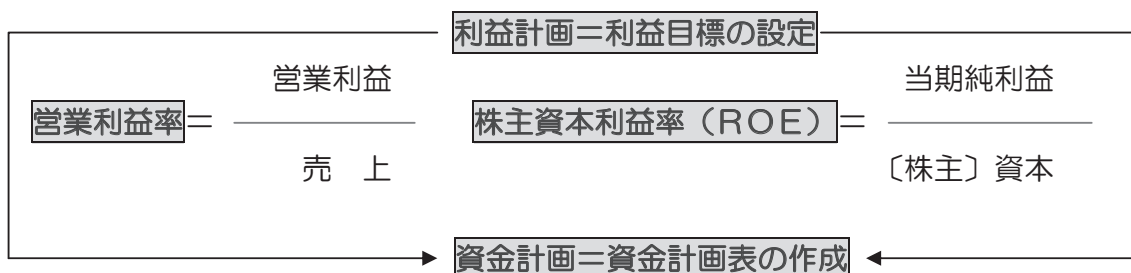


【7】 利益計画と資金計画〔(個人別)・事業部・部門・製品・地域別・全社〕

利益計画に関しては、企業の経営者が「2017年度には**営業利益率で5%以上、ROE (Return on Equity)で8%以上**が必要です」などと宣言をすることが新聞で報道されます。このように利益計画では、目標とする利益や利益率を設定し、具体的な数字を予算に盛り込みます。利益計画の基本は**売上収益を伸ばし、費用を削減**することにあります。

資金計画は利益計画を実現するため必要な資金を算定して、その資金の財務調達計画と資金の具体的投資運用計画を「**資金計画表**や**キャッシュ・フロー計算書**」で詳細化します。資金計画の根本は資金の必要な時期の予測とその調達・運用方法ですが、得意先の倒産などの危機管理から信用・担保調査も含まれます。

利益計画と資金計画で年間**予算編成**がなされ毎月**執行・管理・統制**されます。

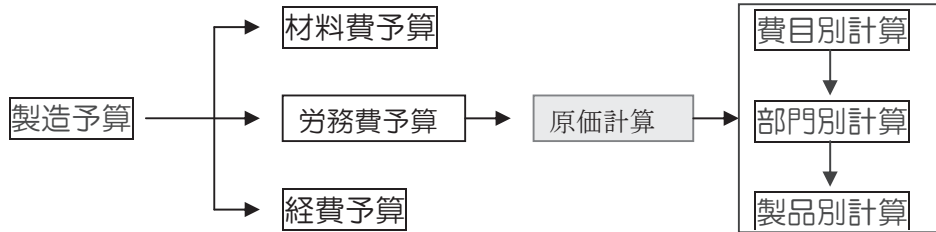


(長期・短期のタイミングで低コストの資金調達と効果的資金運用とが不可欠)

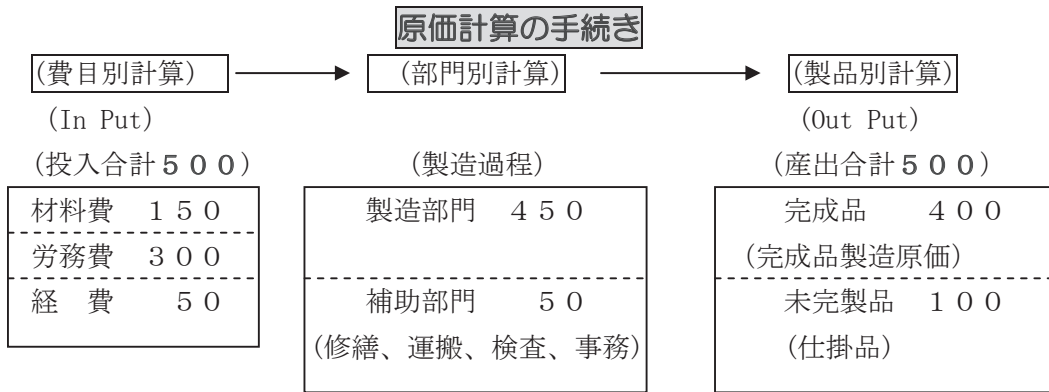
【8】製造予算と原価計算

予算編成では、原価管理の一環として**製造予算**が編成されます。製造予算は、**企画→市場調査→プロジェクトの編成→研究開発→設計・試作→製造**という段階の最終製品化予算です。

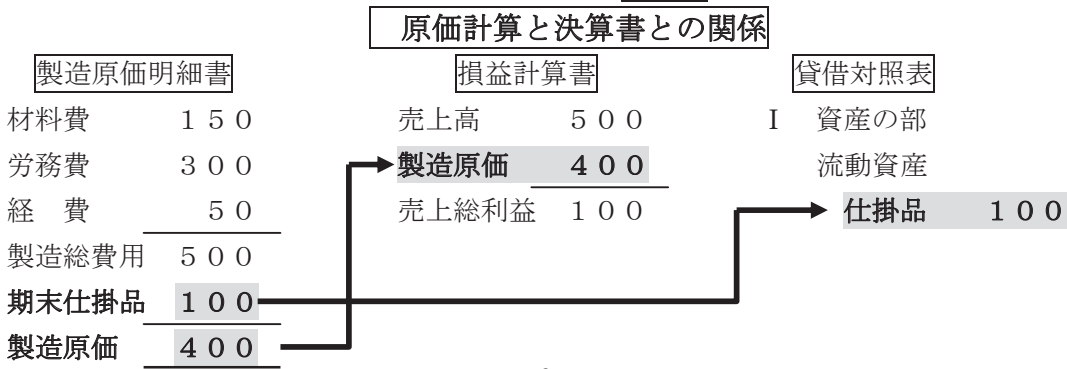
原価計算とは工場におけるこの製品コスト（製造原価）の計算方法です。実際の原価で計算する**実際原価計算**以外に、目標となる標準原価を設定して、実際原価と標準原価を比較して差異を分析し、製造効率を高める**標準原価計算**の手法も用いられます。



原価計算の手続きは、材料費・労務費・経費の各**費目別計算**に始まり、製造過程における製造部門や補助部門の**部門別計算**を経て個別原価計算や総合原価計算の最終的な**製品別計算**となります。

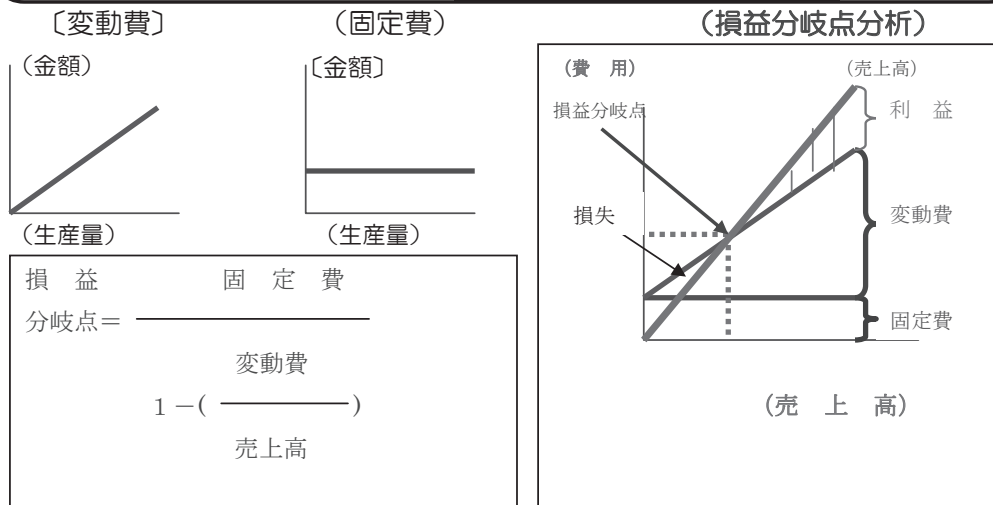


(投入に対する製品完成進捗度を**80%**と仮定すると)



【9】変動費と固定費の区別

利益計画で大切な一つに、**変動費と固定費**があります。変動費は工場の生産量と比例関係で増減するコストで材料費などが代表です。固定費も種類がありますが、工場が休んでいてもかかるコストで基本賃金や固定資産税や光熱費の基本料金などです。変動費管理も大切ですが、大胆な固定費削減が企業業績回復の原因の一つです。利益計画では**損益分岐点分析(売上＝費用)**が大切です。



【10】ESG 投資などの新しい経営分析と統合報告書

財務諸表の分析は経営分析の基本ではありますが、近年は持続可能な社会 (Sustainability) を目指して地球環境への配慮 (Environment)、社会貢献や差別のない人権の尊重 (Social)、法令遵守による企業統治 (Governance) に積極的に取り組んでいる企業に投資ファンドを投入する **SEG 投資**などの新しい動きがでてきました。

その狙いは、環境や人権を無視した短期的な利益より長期的に総合的な企業価値を高める努力をしている企業を評価し、そういう企業にファンド支援した方が、結局安定したリターンが見込まれるという考えです。SEG 投資を計数化することは可能ですが、財務諸表のように貨幣で評価できない項目もあります。

そのため、現在は財務諸表を中心とする財務情報と SEG のような非財務情報の双方を含んだ「**統合報告書(Integrated Reporting)**⁽⁵⁵⁾」が注目され、現代の企業情報は、財務情報から非財務情報、過去情報から現在・未来情報、主要情報と補足報等の総合的情報開示に変化し、持続可能な社会貢献が叫ばれています⁽⁵⁶⁾。

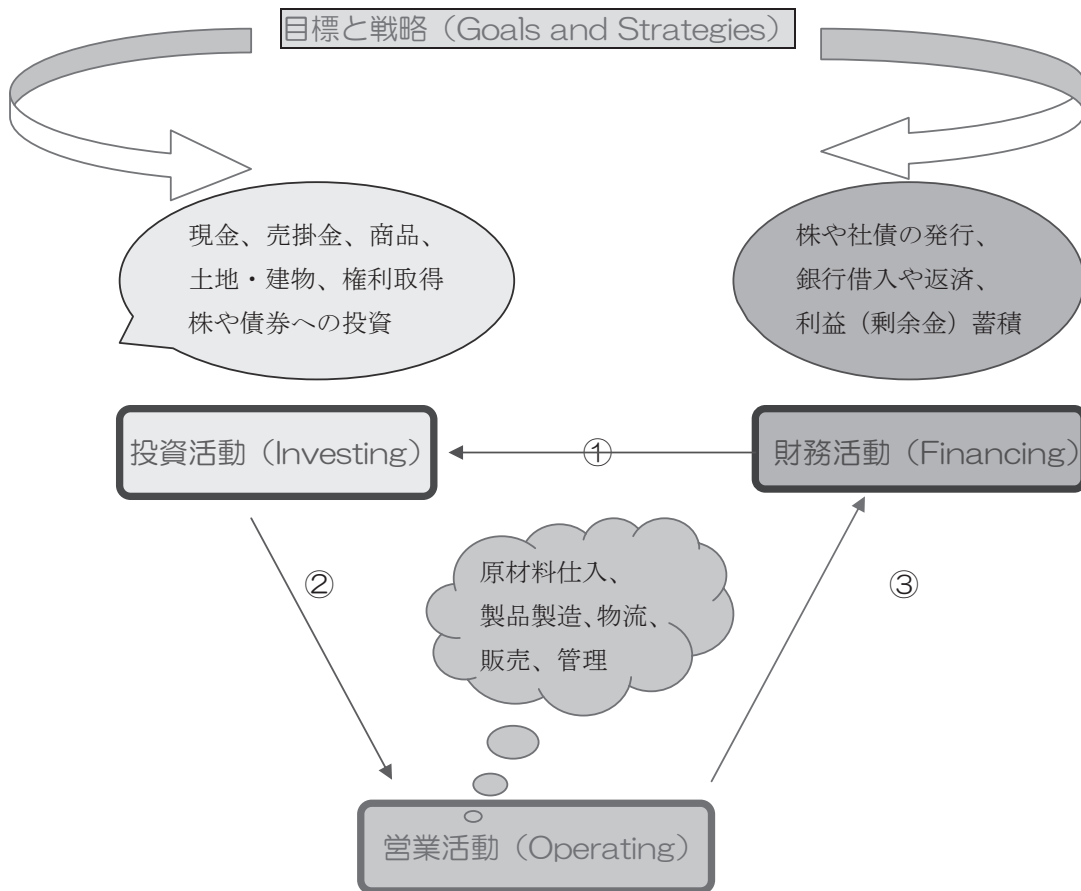
(55) 統合報告書の現代的課題については「そのやり方では伝わらない『統合報告バブル』に埋もれるな」、『日経 ESG』(日経 BP 社)、2018年7月号、16～29頁参照。

(56) 荒井勝稿「ESG 投資で注目が集まる環境情報」、『週刊東洋経済臨時増刊号 - CSR 企業白書2018』(東洋経済新報社)、2018年5月2日号、60～67頁。

Ⅲ. 企業活動と会計との密接な関係

【11】 会計から見た企業活動の3つの形態

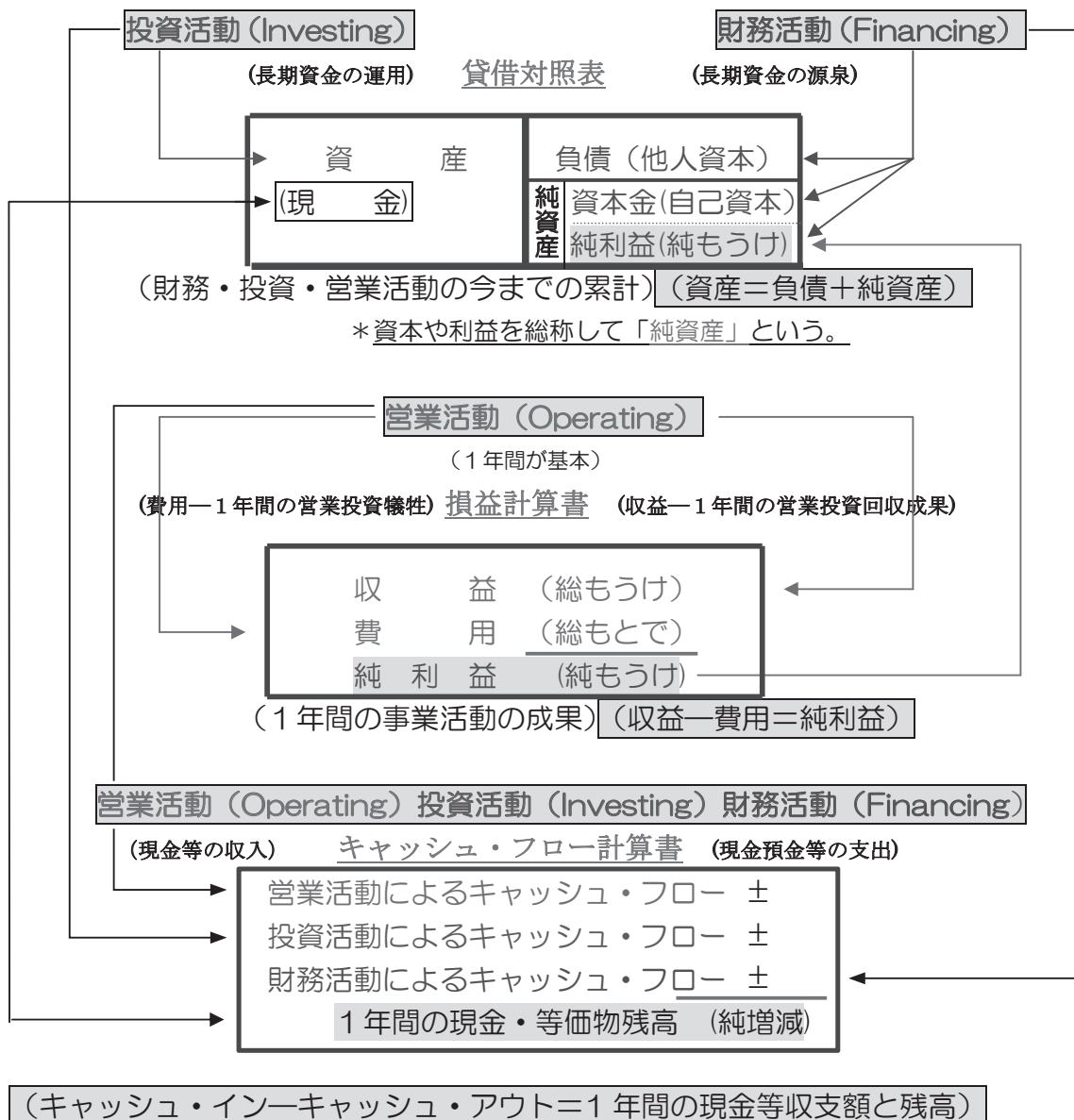
企業には活動の基本となる設立趣旨や目標、戦術や方針があります。これは人間でいえば生きる信念のようなものでしょう。この目標や戦術を基本に、まず①事業に必要な資金を調達する**財務活動** (Financing) が起こります。株式や社債を公募し、銀行からお金を借り入れる活動です。②集めた資金は当然、事業に投資されるものです。資材の購買活動をしたり、固定設備を購入したり、商標権を買い入れたりする**投資活動** (Investing) に投下されます。そして具体的に年間の事業活動である仕入、製造、物流、販売、管理という企業の1年間の**営業活動** (Operating) が発生します⁽⁵⁷⁾。会計はこの3つの企業活動を測定・伝達する技術や思考なのです。



(57) C.P.Stickney, R.L Weil, S.Davidson, op.cit., p.7

【12】 企業活動と3つの財務諸表との関係

会計は簿記を中心にこの3つの企業の活動を測定し、財務諸表を通じて伝達していません。投資活動と財務活動は主に貸借対照表で、営業活動は損益計算書で、そして営業活動、投資活動、財務活動から発生するキャッシュ（現金等）の状況はキャッシュ・フロー計算書で示されます。これを企業が公表する三大財務諸表といい、法人格を持つ個々の企業の個別（単独）財務諸表と企業グループ全体の連結財務諸表が作成されます。

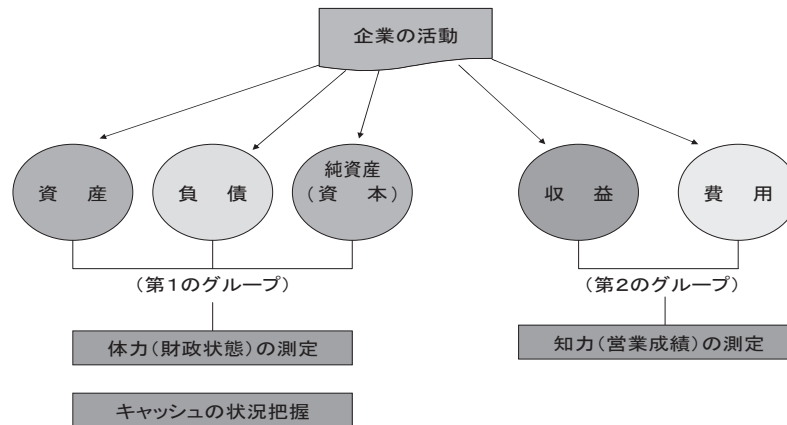


IV. 会計の基本—簿記の構造

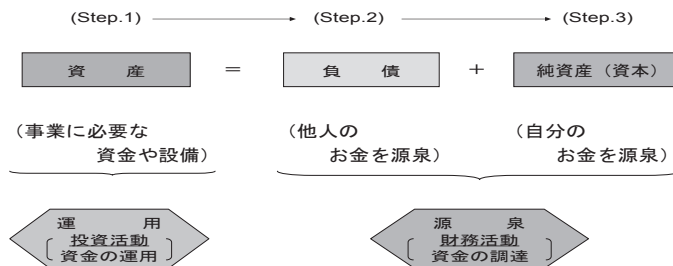
【13】簿記の魔法の力を考える

簿記は企業の活動を5つの要素に分解してしまう、魔法の力を持っています。資産、負債、純資産（≒資本）、収益、費用の5つです。この5つの要素を二つのグループに分けます。第一のグループ—資産、負債、純資産（資本）で企業の体力である健康診断をします。この健康診断書は貸借対照表で財政状態として表示されます。また、人間の血液にあたるキャッシュの検査も大切です。1年間の現金等の収支状況はキャッシュ・フロー計算書で示されます。第二のグループ—収益、費用では1年間の企業活動の成果である成績表を作成します。この成績表は損益計算書に経営成績として表示されます。

(1) 簿記は企業の活動を5つの要素に分解する



(2) 資産と負債・資本は切っても切れない関係



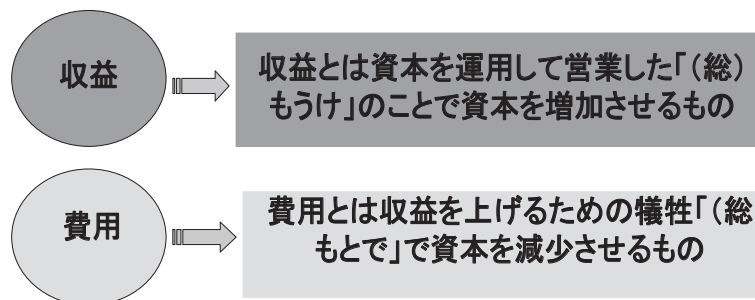
(3)大スター貸借対照表(健康診断書)のしくみ

B/S(Balance Sheetの略称)

資 産	負 債
	純 資 産 (資 本)

(注) 株式会社の資本は「会社法」などの法律の規制で「資本金」「資本剰余金」「利益剰余金」などに細分化されます。

(4)収益と費用、純利益または純損失の概念



$$\text{収益(総もうけ)} - \text{費用(総もとで)} = \text{純利益(Good!)}$$

$$\text{費用(総もとで)} - \text{収益(総もうけ)} = \text{純損失(Bad!)}$$

(5) 損益計算書(成績証明書)

P/L (Profit and Loss Statementの略称)

費	用	収	益
(当期純利益)			

(注) 損益計算書をP/Lと略して書くこともあります。その様式(フォーム)は報告式の形式が採用されます。

収益	××	↓
費用	××	
純利益	××	

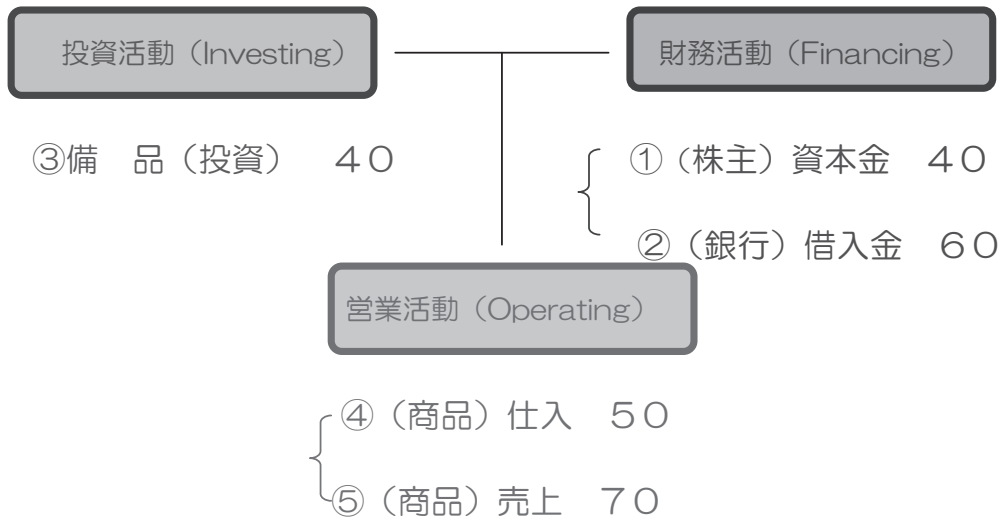
V. 簿記と財務諸表を理解する方法

【14】簿記と財務諸表を具体的に考えて確認する

(B/S = 貸借対照表) (P/L = 損益計算書) (C/F = キャッシュ・フロー計算書)

(例題)

財務活動により株主から資本金40、銀行から借入金60を調達して事業を開始した。投資活動として備品などの設備投資に40、営業活動として商品仕入50、商品の売上70が発生した。すべて、現金による取引である。



【15】(決算後表式) 試算表による簿記の流れ

試算表とは資産、負債、資本、収益、費用を一覧表にして財政状態や経営成績を把握するために作成する簿記の集計用の一覧表で財務諸表作成の基礎となる⁽⁵⁸⁾。

お金をどう使うか、
またはどう使っているか

お金をどこからも
ってくるか

(決算後表式) 試算表 (しさんひょう)

(資金) 運用	勘定科目	(資金) 源泉
①40 ②60 ⑤70	現金 (資産)	③40 ④50
③40	備品 (資産)	
	借入金 (負債)	②60
	資本金 (純資産)	①40 ⑥20
④50	仕入 (費用)	
	売上 (収益)	⑤70
⑥20	純利益 (純資産)	
280		280

(58) 試算表は合計試算表、残高試算表、合計残高試算表と種類によってそれぞれ機能は異なるが、一般に簿記において最も重要な試算表の機能は、決算前に仕訳帳から元帳への転記の適正性を検証する合計試算表である。ここで用いる決算後表式試算表は、簿記の知識のない2年生に簿記と財務諸表との関係をより分かりやすく説明するため考案した特殊な試算表で、内容は決算データまで含み、試算表に簿記の元帳の機能をもたせ、かつ、簿記の試算表データから財務諸表が誘導(表式)されることを意図した試算表を意味している。

また、借方・貸方の簿記特有の表現もそれ自体、簿記の歴史やアカウンティング・マインドを修得に役立つとは思いますが、簿記を知らない入門時には(資金)源泉と(資金)運用と表記したほうが分かりやすいので、あえてここでは借方・貸方を使用していない。

【16】簿記の構造—B/S P/L C/Fの関係を考える⁽⁵⁹⁾

(簿記)

(財務諸表作成)

(決算後表式) 試算表

(運用)	勘定科目	(源泉)
①40	現金 (資産)	③40
②60		④50
⑤70		
③40	備品 (資産)	
	借入金 (負債)	②60
	資本金 (純資産)	①40
		⑥20
④50	仕入 (費用)	
	売上 (収益)	⑤70
⑥20	純利益 (純資産)	
280		280

(B/S) 貸借対照表(健康診断書)	
現金 80	借入金 60
備品 40	資本金 40
	純利益 20
<u>120</u>	<u>120</u>

(P/L) 損益計算書(企業の成績表)
売上高 70
売上原価 -50
<u>純利益 20</u>

(C/F) キャッシュ・フロー計算書(血液調査表)	
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー	
	(直接法) — 手続が面倒!
仕入代金	-50
売上代金	+70
	<u>+20</u>
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー	
備品購入代	-40
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	
株主資本金	+40
銀行借入金	+60
	<u>+100</u>
IV. 現金・等価物残高	<u>80</u>

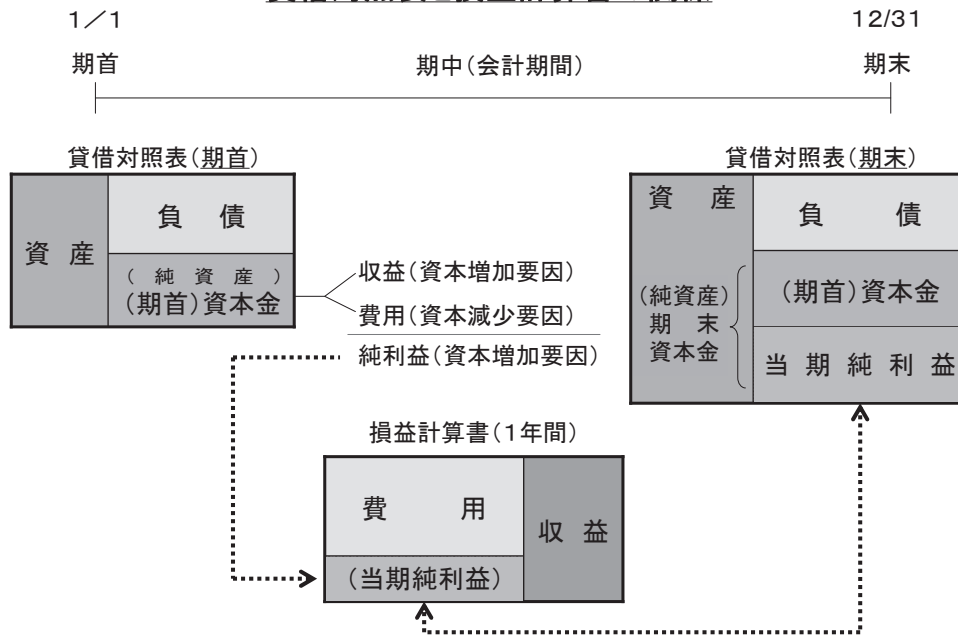
(間接法) — 実務で採用
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー
純利益 +20

(注) 営業活動によるキャッシュ・フロー算定方法には右側のように現金の収支を直接把握する直接法と上のように税引前当期純利益からスタートして間接的に導き出す間接法があり、簡便な間接法が主流である。投資・財務は直接法で算定される。

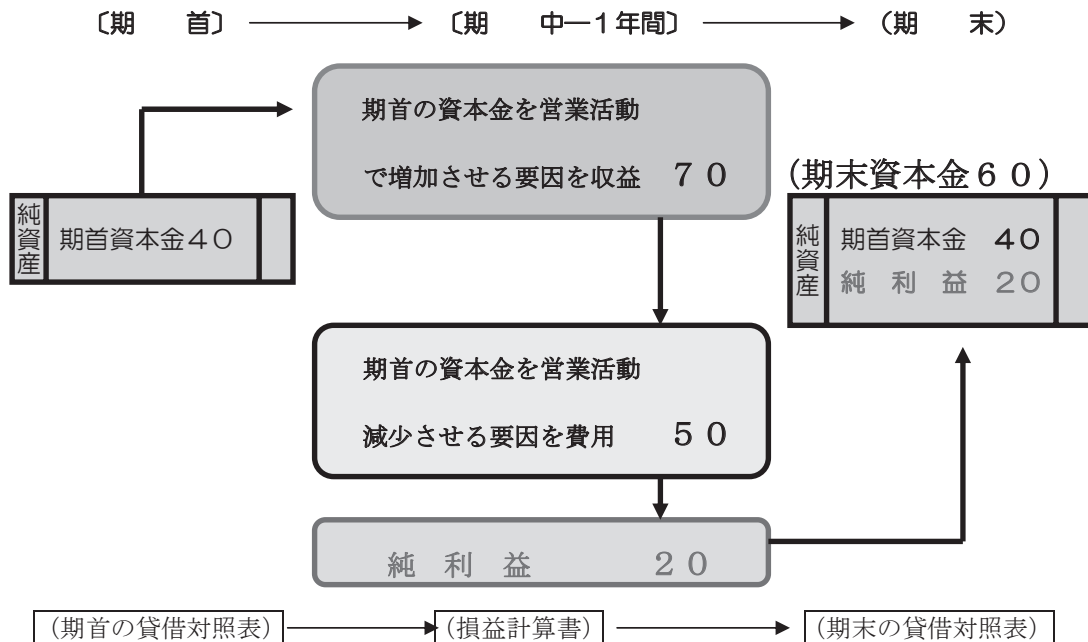
(59) 椎名市郎著『現代財務諸表の基礎理論—収益費用アプローチと資産負債アプローチの混在型会計の展開』(税務経理協会)、2004(平成16)年、251頁。

【17】簿記の構造—B/S P/Lの関係を復習する⁽⁶⁰⁾

貸借対照表と損益計算書の関係



例題のケースの資本の動きの確認



(60) 椎名市郎著『初級簿記—改訂第二版』(税務経理協会)、2013(平成25)年、13頁。